

マチクイの諷^{うた}

作／福田修志

木々に囲まれたビルの屋上にある小さな小屋・テーブル・机・椅子。
全て木で作られていて、その造りは荒く、素人の手作りのようだ。
その中に『人の形を留めた木』が一つ、存在している。
双眼鏡で遠くを眺めるサワタリとそれを覗いているコマヌイ。

一・父親は

コマヌイ どうですか？サワタリ教授。
サワタリ (無視して) なんだあ、港からは近いのか……。
コマヌイ 教授？
サワタリ ああ、うん。良いね、これ。凄くよく見えるよ。
コマヌイ 持って来て正解でしたね。
サワタリ 良い仕事するねえ、コマヌイくん。
コマヌイ でも正直、ココまでの景色だとは想像していませんでした。
サワタリ 全くだ。こんな山登りさせられるとは思わなかったもんなあ。
コマヌイ ……私、言いましたよね？
サワタリ 言った？
コマヌイ 「結構、坂を上りますよ」って言いました。
サワタリ ああ、言ったかねえ。
コマヌイ 資料に目を通して頂いてたら、分かる話だと思えますけど？
サワタリ コマヌイくんこそ、情報は正確に。
コマヌイ 伝えてますよ。
サワタリ 坂じゃなかったでしょ？
コマヌイ は？
サワタリ 坂段。階段だったじゃない。
コマヌイ ……訂正しておきます。
サワタリ 頼むよ？旅の仲間としてはさ、気持ちよく仕事したいからね。
コマヌイ ……ええ、そうありたいです。
サワタリ (双眼鏡を覗きながら) おお！
コマヌイ どうしました？
サワタリ 何だ？あの犬。うほほほほ。
コマヌイ ……もう返して下さい。
サワタリ ダメ。まだ使用中。
コマヌイ 終わりです。
サワタリ 仕事で見てるんだよ？コマヌイくんも遊んでないで仕事して。
コマヌイ ……。

コマヌイは、カウンターに近づく。

コマヌイ (小屋に向かって) どうですか？見つかりました？

マトヤ (小屋から) やっぱりこっちには届いとらんごたるですね。
コマヌイ 無理して探さなくても良いですよ？

マトヤは、手紙が大量に入った箱を持って小屋から出てくる。

マトヤ どがん封筒でしたっけ？

コマヌイ これくらいの薄いグレーの……。

マトヤ ええと……。

コマヌイ レニアート財団です。

マトヤ レニアート……。

コマヌイ 私の連絡が悪かったですから……。

マトヤ いや、家に送ってもらったのが、ちゃんと来とったですよ。

コマヌイ ……始めましょうか？

マトヤ おかしかなあ……。

コマヌイ 予備、ありますので。

マトヤ 最近、なんか多かいですよね。こがんことの。

コマヌイ (笑顔で返す) このテーブル良いですか？

マトヤ あ、どうぞどうぞ。

コマヌイとマトヤがテーブルを囲む。

サワタリはまだ、双眼鏡で外を眺めている。

コマヌイ (サワタリに) 始めますよ？

サワタリ (そのまま) いいよ。

コマヌイ サワタリ教授。

サワタリ 気にしないで始めて。

コマヌイ ……では、改めまして、レニアート財団のコマヌイです。

マトヤ カトウです。

コマヌイ これからいくつか質問に答えて頂きたいのと……まあ、あとは追々。

マトヤ 俺が分かることやったら、何でも。

コマヌイ 難しいことは聞きませんから。

マトヤ 緊張しますね。

コマヌイ 答えたくないことは、無理しないで良いです。

マトヤ はい。

コマヌイ それから……お父様にもお聞きしたいのですが……。

イチロウ ……。

コマヌイはマトヤに人の形を留めた木(イチロウ)のことを促す。

マトヤ (大きな声で) お父さん。

イチロウ あ？

マトヤ よかね？

イチロウ 誰か来たよね？

マトヤ 本土から来た財団の人。コマヌイさん。さっき挨拶したろ？

イチロウ ふん。

コマヌイ (大きな声で) よろしくお願ひします。

イチロウ ……。

マトヤ お父さん？

イチロウ ……。

マトヤ また寝たごたるです。すみません。

コマヌイ ……ステージⅣでしたよね？

マトヤ ここまで進行しとったら、起きとつとか、寝るとかも分からんで。

コマヌイ お食事も大変ですよ。

マトヤ 最近は、水しか飲めんどです。

コマヌイ お水だけ……。

マトヤ はい。贅沢か話ですけど。

コマヌイ 贅沢……ですか？

マトヤ ああ……本土から離れとるけん、暈ヶ尹じゃ、水は貴重かとです。

コマヌイ なるほど。

マトヤ 船着き場から、こっちに来る途中に、大きな山の見えたでしょう？

コマヌイ ええ、見えました。

マトヤ ちょうど、この裏になるとですけど、山の天辺に、貯水タンクのあるら、当番で運びよるとですよ。

コマヌイ 大変な作業ですね。

マトヤ 親父もがん病気になってしもうたけん、ちょっとぐらい贅沢させてやらん

ば。家にも帰れんで、ずっととこがんとこにしかおられんし。

コマヌイ カトウさんも、ずっとこちらに？

マトヤ もう二年ぐらいになるかなあ……。親父一人にするわけにもいかんし、家は

もう人の住める状況でもなかけんですね。

コマヌイ そうですか……。

マトヤ 見たことなかですか？

コマヌイ 映像では……だいぶ前の物ですけど。

マトヤ 南部の方は、どこも似たようなもんですよ。

コマヌイ ……よかったですら、後でご自宅の方に伺っても？

マトヤ よかですけど、ウチはホントに酷かですよ？

コマヌイ そんなに？

マトヤ 家の前が公園やったんですけど、ちょうどあの日が日曜日やったもんで、親子

連れとかの沢山おったらしくて……。

コマヌイ それで……。

マトヤ 行くだけ行って、見てみて下さい。

コマヌイ あのこと……写真も何枚か良いですか？
マトヤ 撮るってことですか？
コマヌイ 資料として、ご理解頂けたら助かります。
マトヤ ……俺は、よかとですけどね。
サワタリ 家、どの辺かな？ココから見えるところ？

マトヤ、サワタリに近づいて行く。

マトヤ 中心点分かりますよね？
サワタリ あのバカデカイ木でしょ？
マトヤ そこから右の方は見ていったら、団地が見えるでしょ？
サワタリ (双眼鏡で覗きながら) 団地……団地……はいはい。
マトヤ その二階です。

サワタリ はあ……あれ誰か住んでるの？
マトヤ 一年ぐらい前まではおったんですけど、今はもう……。
サワタリ あんな近場に団地作らなきゃ良かったのになあ。

マトヤ 事故の起きるって、誰も思うとらんかったって言うてましたから。
コマヌイ もう少し離れていたら、被害も少なかったでしょうに……。

サワタリ まあでも、陽当たり良さそうな団地だね。

マトヤ 昼間は海風も吹いて気持ちよかとですよ。

サワタリ 南向き？

マトヤ ……いや、どがんですかね。

サワタリ えっと……カトウさんだっけ？

マトヤ はい。

サワタリ 質問には正確に丁寧に答えなきゃダメだよ。君の答えの一つ一つが病気の解明に繋がってるんだから。

マトヤ ……はい。頑張ります。

サワタリ (コマヌイに) メモの用意。

コマヌイ はい。

コマヌイはバッグから、急いで手帳とペンを取り出す。

サワタリ 造りは、鉄筋？

マトヤ ……はい。

サワタリ ベランダっぼいのが見えたけど？

マトヤ あります。そこから木が窓を破って中に入ってきて。

サワタリ 部屋の間取りは？

マトヤ ……間取り？

サワタリ 答えて。

マトヤ ……二DK。

サワタリ 風呂は？ユニットバス？
マトヤ ……そうです。
サワタリ この島の団地は、全部そうなのかな？
マトヤ ……だと思えます。
サワタリ ……なるほどね。

サワタリ、再び双眼鏡を覗き込む。

マトヤ 何か分かったとですか？
サワタリ ウチの方がデカイ。
マトヤ ……。
コマヌイ (マトヤに) ゴミ箱どこですか？
マトヤ あっちはです。

コマヌイ、メモを破ってカウンターへ行く。
入り口のドアが開き、アラカネが入ってくる。

二・アラカネ

アラカネ すんません、遅うなってしもうて。
コマヌイ わざわざ取りに帰って頂いて、すみません……。
アラカネ ありや、お茶も出さんで。
マトヤ あった？
アラカネ 私は、ちゃんと分かる所に置いてるけん。

アラカネはカウンターの中に入る。

アラカネ 冷たかとで、良かですか？
コマヌイ お構いなく。
アラカネ 今日は暑かけん、飲まんば倒るってすよ。
コマヌイ いやでも、貴重な飲み物ですから……。
アラカネ (マトヤに) また、いらんこと言うたとやろ？
マトヤ 説明しただけたい。
アラカネ (コマヌイに) 市販のヤツですけん、遠慮せんちやよかですよ。
コマヌイ じゃあ、お言葉に甘えて。
アラカネ 何もなかとこですけど、ゆっくりしてって下さい。

アラカネはコマヌイとサワタリにお茶を準備する。

コマヌイ 凄く綺麗な島ですよ。海が綺麗だし、空気もおいしいし。

アラカネ 工場の動いとる頃より綺麗かと思はなかって言う人も多かたですよ。
コマヌイ そんなに？

アラカネ 吐く息の黄色かったって冗談のごたるとは言うて。

マトヤ (コマヌイに) でも二〇年もこがん感じやったら、そりゃ綺麗になりますよね？

アラカネ あんた覚えとらんくせに、知ったごたる口ば聞かんと。

マトヤ お父さんが言いよったもん。

アラカネ イチロウおいちゃんの戯言は真に受けてどがんすつとね。

マトヤ アラカネさんも、そのうちこがんなるとやけんね？

アラカネ (コマヌイに) 聞きました？こん男こがん酷かことば平気で言うたですよ？

コマヌイ アラカネさんは、一世になるんですよね？

アラカネ ええ。

コマヌイ 事故の時はご自宅に？

アラカネ 中心点から離れとるけん大丈夫やろうって言われとったとけど……分らんも
んですね……。

愛おしそうに足を触るアラカネ。

アラカネ おかげで嫁の貰い手もなくて……。

マトヤ そいはまた別の理由やろ？

アラカネ うるさかねえ……。

コマヌイ もう、何年ですか？

アラカネ え？……いや、あの……若か頃はね、おったとですよ？映画館とか神社とか、

暈ヶ尹のデートスポットは一通り行ってますから。

マトヤ ほう……。

アラカネ 本当って。三年前は……。

マトヤ 三年？

アラカネ いや、五年前かな……。

マトヤ へ。

アラカネ (コマヌイに) あんたもそがんこと聞かんでよ。

コマヌイ いや、あの……足のことを聞いたんですが……。

アラカネ え？……あはははは。

苦笑するマトヤ。

アラカネ あんた気づいとったとやったら言わんねさ。

マトヤ 面白かけん、聞いとこうと思うて。

コマヌイ で？……何年ですか？

マトヤ えっと……四年くらい？

アラカネ そがんなるかね？(コマヌイに) 本当、おかしか話ですよ。

コマヌイ 中心点から、離れた位置だと、そういうこともあるんですね……。

アラカネ 北部の研究者に言われたとけどね、珍しかとって。(自慢げに足を触り)レアモノ
らしかよ。

マトヤ 自慢しても意味なかない。

アラカネ そがんことあんもんね。(コマヌイに)ねえ?

コマヌイ より多くの情報、病気の解明に繋がる貴重な意見です。

アラカネ こがんして、東京からわざわざ、こがん小さか島に来てくれたとよ。ありがとう
うございますって、言わんば罰の当たる。(コマヌイに)ねえ?

コマヌイ あ、はい……。

アラカネ あたし達マチクイに、罹った者は、今は島の外に出れんけど、いつかは治るっ
て、信じとるけん。

コマヌイ もちろんです。

アラカネ 学者先生に話ば聞いてもらって病気の良くなれば暈ヶ尹も昔のごとなるとき。

マトヤ なんか誤解しとらん?

アラカネ なんね?

マトヤ この人、学者さんじゃなかよ?

アラカネ え?

コマヌイ 学者先生は、あちらです。

アラカネ、サワタリに目をやる。

アラカネ お父さんって思うとった……。

マトヤ 仕事で来るとよ?

アラカネ だってどう見ても……。

コマヌイ サワタリ教授。アラカネさんからおいしいお茶頂いています。

サワタリ ……酒ないのかな?

アラカネ いや、ココは……そがん場所じゃなかですけん。

サワタリ 何で?『憩いのバー』でしょ?

アラカネ いえいえ、『憩いの場』。

マトヤ お茶やお菓子と、楽しいトークがウリなんで……。

サワタリ 楽しいトークじゃ酔えないだろ。つままない店だなあ。

アラカネ つままない……。

コマヌイ 失礼ですよ。この素晴らしい景色で十分でしょ?

サワタリ 酒ぐらい置いてもらわないとね。

コマヌイ お酒だったら、いつでも飲めるじゃないですか。

サワタリ せっかくの見晴らしだからこそ、一杯やりたいんだろ?

コマヌイ そんなに酔いたいなら、もう何往復か船に乗って解決して下さい。

サワタリ コマヌイくん。男の浪漫を理解できない女は苦勞するよ?

コマヌイ ……女に浪漫を語る男も苦勞すると思えますが?

サワタリ 男の半分は浪漫と酒で出来てるの。浪漫を着に酒を飲む。(マトヤに)なあ?

マトヤ ……いや、どがんでしょね?

サワタリ まあ君の場合そうかもしれないね。
コマヌイ 良いから仕事して下さい。
サワタリ せっかちな女だなあ……やれば良いんだろう？やれば。

三、マチクイという病

アラカネ アラカネです。学者先生にお会いできて、光栄に思っております。

おもむろにアラカネの体を触るサワタリ。

アラカネ あの……学者先生は、お医者様になるのですか？

サワタリ 医者じゃ力不足だから呼ばれたの。

アラカネ (コマヌイに) 何の先生ですか？

コマヌイ 生物学です。

アラカネ お医者様じゃなかとに、触って何か分かるとですか？

サワタリ それを触って考えてるんだよ。

アラカネ (コマヌイに) 大丈夫とですよ？

コマヌイ 私も少し不安になってきてます。

マトヤ 同じ財団の人じゃなかとですか？

コマヌイ サワタリ教授は今回のマチクイの調査に当たって、生物情報学に長けているからということ、大学からの推薦で。

マトヤ マチクイって生物学になるのですか？

サワタリ カトウさん。君は『マチクイ』のこと、どれくらい知ってるの？いや、そも

そも、『マチクイ』って何？

マトヤ ……それを先生が調べてくれるとじゃ……。

サワタリ (遮って) 私が質問してるんだ。知りたいのか、知りたくないのか。

マトヤ 知りたいです。

サワタリ 知りたい。もっと知りたい。そこから、学問は始まるんだねえ。

マトヤ ……はあ。

サワタリ 原因は、恐らく二〇年前の第七号工場の爆発。

マトヤ 北部の研究者から聞いてます。

サワタリ 当時は、南西の風、晴れ。風に乗った黒い煙が島の南部を覆い尽くした。

アラカネ 晴れ？確か、雨の降ったって思うけど？

サワタリ 一時的に、気流が発生して、雨になった。なるほど、それもあるか……。

アラカネ その煙のせいで、みんな『マチクイ』に罹ったのですか？

サワタリ 黒い煙、もしくは、気流によって発生した雨。それらによってDNAに何ら

かの変化がもたらされたんだろうけど……問題はその後なんだよ。

マトヤ 北部の研究者も、そこで止まっとるごたるです。

サワタリが鋭い目つきでマトヤを睨む。

コマヌイ カトウさん。

マトヤ はい？

サワタリ あのねえ、さっきから北部、北部って言うけど、あいつら国家の犬と私を一緒にするんじゃない。

マトヤ いや、その……。

サワタリ あいつら、二〇年も経ってるのに、何にも解決してないわけでしょ？そうでしょう？

アラカネ まったくそんな通りです。

サワタリ (本を取り出して) ココに来る前に、北部が公表している論文を、読んだんだけどね……。

アラカネ 論文？

マトヤ そがんとあったとですか？

コマヌイ 読まれてないんですか？

アラカネ 知らんさ。早う言うてくれんば、ねえ？

マトヤ まあ、俺たちが見ても、よう分からんやろうけど……。

サワタリ そう。あの国家のワンちゃん研究者の論文なんて、面白味の欠片もないね。

コマヌイ 私も、3行で挫折しました……。

サワタリ その点、私の論文『この指とまれ』は、とても面白いよ。一度読んでみると良い。地球上の生物の変遷を笑いを交えながら、おもしろ可笑しく書いているからね。

アラカネ それは……ぜひ。

サワタリ 北部のバカ犬どもの論文によると、当時の様子について、こんなことが書かれている。【当時、八つの工場で行われた新エネルギーの開発には、四千人を超える人間が関わっていた。】これ、ホント？

アラカネ 数は知らんですけど、大人は殆ど工場におりました。

サワタリ 【休止中であつた第七号工場が突如、制御不能に陥る。第七号工場、爆発。

それに伴い、第二号工場以外の工場が炎上。死傷者、およそ二千人。その後、次々と体が木になる人々が現れる。その数、およそ二千人。】

コマヌイ ……。

サワタリ さあ、数の足し算だ。二千人足す二千人は？

マトヤ 四千人です。

サワタリ ということは、工場にいた殆どの人間が被害にあつてることなのか？

マトヤ 工場におつた人でも、すぐに発症せんかった人もおるって聞きました。

サワタリ つまり、被害は工場以外の人間にまで一瞬にして拡大した。【その後、新地になった第七号工場跡地に、巨大な『マチクイの木』が生まれる。】(外を見て)アレだね？

マトヤ ……そうです。

サワタリ アレはマチクイに罹つた人達が集まって、出来たってことだね？

マトヤ そがん聞いてます。

コマヌイ、外に見える大きな『マチクイの木』に向かって手を合わせる。

サワタリ 一本の木に見えるあのバカデカイ木が、一体どうやって出来たんだ？
マトヤ そいは……。

サワタリ (アラカネに) 君、見たんなら説明してくれ。

サワタリの呼びかけに無反応のアラカネ。

サワタリ 何をもったいぶる必要があるんだ？
アラカネ ……。

サワタリ 君！
アラカネ ……。

アラカネは口を押さえ奥へ走る。

小屋の奥から、アラカネの嗚咽が聞こえ、マトヤは飲み物を準備する。

コマヌイ 大丈夫ですか？

マトヤ もうちょっと優しく聞くと言ってくれんですか？あがん土足で踏み込まれたらたまらんですよ……。

コマヌイ すみません……。

マトヤは小屋の奥へ飲み物を持って行く。

コマヌイ サワタリ教授。アラカネさんには、席を外してもらった方が……。

サワタリ 私が悪いのか？

コマヌイ ……女性ですから、聞き方があると思います。

サワタリ 彼女を選んだのは君たちだろう？

コマヌイ ……お願いします。

コマヌイとマトヤが戻ってくる。

アラカネ ……すみません。もう、大丈夫です。

マトヤ ちょっと休んどかね。

アラカネ 学者先生が『マチクイ』ば治してくれるとやけん。しっかり、せんば。

サワタリ その通り。こんなの落書きだ。爆発時に放出された物質や、地質調査の結果がまるで書いてない。

アラカネ そがおかしかとですか？

サワタリ 私に言わせたら明らかかな手抜き、馬鹿にするにもほどがある。

アラカネ 北部のモンならやりかねんです。

マトヤ　　そがん決めつけんでも。
イチロウ　うう……。

全員、イチロウを見て止まる。

四、マチクイと歌

マトヤ　　お父さん。
サワタリ　ほっほう。ついに目覚めたか。
コマヌイ　さっきも起きてましたよ。
イチロウ　……うう。
サワタリ　静かに！何かメッセージを伝えようとしている。
イチロウ　マトヤ……お菓子食べたい。
サワタリ　……「お菓子が食べたい」……何の暗号だ？
コマヌイ　暗号じゃないと思います。
サワタリ　シッ！（マトヤに）会話を続けて。
マトヤ　　……お父さん。さっきお水飲んだばかりやろ？
イチロウ　昨日やろ？
マトヤ　　昨日じゃなくて、今日。さっき。
イチロウ　そうだったけ？
マトヤ　　そうだよ。
サワタリ　素晴らしい……。素晴らしいよコマヌイ君。
コマヌイ　ええ、先ほど私も拝見しました。
サワタリ　（イチロウに触って）外皮は、思った以上に硬いね。こりや完全に木だな。
アラカネ　もう、内臓とかも木になっとるらしくとです。
サワタリ　素晴らしい。

サワタリはコマヌイに目配せし、注射器を準備する。

サワタリ　（イチロウに）お父さん、ちよつとチクってするけど、痛くないからね。
マトヤ　　ちよつと、何ばするとですか？
サワタリ　採取するんだよ。この木の樹液を。
マトヤ　　樹液って……何ですか、その言い方。
サワタリ　（コマヌイに）何か間違ってる？
コマヌイ　（マトヤに）表現が適切じゃなかったですね。
サワタリ　これはどう見ても、木じゃないか。
マトヤ　　違います。……人です。
サワタリ　木だろう？
マトヤ　　人です。
サワタリ　カトウさん、これは定義の問題だよ？どこまでが動物で、どこからが植物

か。

マトヤ そういう理屈は言うのとじゃなかとです。

サワタリ 君も頑固な男だなあ。

コマヌイ サワタリ教授も。

マトヤ コマヌイさん、俺やっぱり協力出来んです。

アラカネ 何ば言いよつと？

マトヤ だってそうじゃなか？ 『マチクイ』の解明のために、協力して欲しかつて言

うて……あんたたちは、ただ実験ばしたかだけじゃなかとね？

サワタリ 君は、もつと大きなもの見方が出来ないのか？

マトヤ そがんして、上から言うとは、やめろつて言いよつと。

サワタリ 君も感情的な言い方はやめたまえ。

イチロウ ああ〜！

全員、イチロウが突然奇声を発したのに驚き、注視する。

アラカネ イチロウおじちゃん、大丈夫とよ？

イチロウ みんな怒つとる。

アラカネ 大丈夫……大丈夫……。

イチロウをまるで子どもに接するように優しくなだめるアラカネ。

コマヌイ (サワタリに) ホテルに帰りましょう。

サワタリ コマヌイくん。

コマヌイ 今日のところは、帰ります。お互い冷静になった方が良くみたいですから。

マトヤ いつ来ても一緒ですよ。

コマヌイ ……失礼します。

コマヌイが、サワタリを引つ張つて去ろうとする。

すると遠くから、『マチクイの歌』が聞こえてくる。

『マチクイの歌』

たがためゆるさん たがためつくらん

あなたに水をあげましょう きれいな水をあげましょう

ここに宿る御霊(みたま)が 枯れないように

静かに歌い始めるマトヤとアラカネ。

島中に響き渡る『マチクイの歌』。やがて、歌は静かに終わっていく。

コマヌイ ……今の歌は？

アラカネ 『マチクイの歌』。たった今、誰かが木になってしまおうたのです。永遠に。
サワタリ ……そういうことか。
マチヤ 分かったでしょ？お引き取り下さい。

何かを言おうとするサワタリをコマヌイが引き留める。
日暮れを告げる鐘の乾いた音が鳴り響く。
コマヌイはサワタリを連れて、外へ出て行く。

五、ユウちゃん

夕方。アラカネが椅子に、マトヤはテーブルの前に立っている。
アラカネはノートを開き、何かを書き記している。

マトヤ 今月は多かね。…何人目？
アラカネ ……九人目。
マトヤ (遠くを見て)……カミカワのおいちゃん、かな？
アラカネ シイばあちゃんかも。
マトヤ シイばあちゃんは、困るなあ。
アラカネ 何で？
マトヤ あそこの野菜おいしかたい？
アラカネ 一所懸命作りよらしたもんね。
マトヤ ……畑、どがんすつとやろか？
アラカネ 継ぐとじゃなか？
マトヤ おいちゃんも、おばちゃんもおらんたい。
アラカネ ユウちゃん。あん子が継ぐさ。
マトヤ 帰ってくれば、そうかもしれんけど。
アラカネ 来たよ？あたし、会うてきたもん。
マトヤ マジで？
アラカネ うん。
マトヤ なんだかんだ言うて、故郷が恋しかとやね。
アラカネ ……発症したとつて。
マトヤ ……しよんなかね。
アラカネ うん。しよんなか。
マトヤ やけて、隠さんでもよかたいな。
アラカネ あんた、ユウちゃんのこと好かんとじゃなかと？
マトヤ 昔の話やろ？
アラカネ 何？その年寄り臭か言い方。
マトヤ やかまし。
アラカネ イチロウおじちゃん、人間こがんで歳とつていくとやね。ちよつとずつ忘れて、残った思い出だけが綺麗かならよかね。

マトヤ　ねえ……ユウちゃん、どがんやった？
アラカネ　全然変わらん、小まんか頃のまんま。
マトヤ　……出かけてきて良か？
アラカネ　あら？仲直り？
マトヤ　そがんわけじゃなかけど……。
アラカネ　……同情しても、悲しむだけやけんね？

ヌカガが、キョロキョロと辺りを見渡しながら現れる。
手には、パンフレットを持って、背中には大きなバッグを背負っている。

マトヤ　いらっしやいませ。
アラカネ　いらっしやい。
ヌカガ　ここ、『憩いの場』？
アラカネ　ええ。何か飲まれます？
ヌカガ　喉カラツカラ。
マトヤ　冷たかとてよかですか？
ヌカガ　キンキンで。
アラカネ　（マトヤに）あたしがするけん。日の暮れんうちに行つてこんね。
マトヤ　いや、でも……。
アラカネ　さっきの歌、誰やったとか調べてくるついでに。ホラ。
マトヤ　じゃあ、七時になったら、お父さんに水やると忘れんで。
アラカネ　ゆつくりよかけんね。

マトヤは、アラカネに感謝しつつ、去っていく。
アラカネは、冷たい飲み物の準備をしている。
ヌカガはパンフレットを開いて見ている。

六、珍客

アラカネ　観光ですか？
ヌカガ　……もしかしてココ、観光者専用の屋上？
アラカネ　そがんとこなかですよ。どこば見てもろうてもよかです。
ヌカガ　やるねえ、カサガイ。フリーダム・アイランド！
アラカネ　……どうも。

ヌカガ、椅子の上で胡座を組み、団扇で扇ぐ。

アラカネ　……荷物、預かりましょうか？
ヌカガ　良いの良いの、気にしないで。大事なものだから。
アラカネ　はあ……どうぞ。

ヌカガ、出されたお茶を一気に飲み干す。

ヌカガ あゝ、おかわり！

アラカネ ……はい。

ヌカガ やっぱりウマいねえ、田舎のウーロン茶。

アラカネ そがん変わらんでしょ。

ヌカガ 水が違うんでしょ？知ってるってば。

ヌカガがアラカネを見ると、市販の烏龍茶を持っている。

ヌカガ 入れ物はその辺のペットボトルだね？

アラカネ まあ、そこは……。

ヌカガ 中身が大事だもんね？知ってる。大事なのは中身。

アラカネ ええ……。

ヌカガ 名水なんでしょ？

アラカネ 暈ヶ尹の……天然水というのを使ってましてですね……。

ヌカガ ほう。

アラカネ あとはまあ……。

ヌカガ な〜にく？企業秘密？

アラカネ どうぞ。名水で作った烏龍茶です。

またもや一気に飲み干すヌカガ。

ヌカガ かゝ。おかわり！

アラカネ よっぼど喉の渴いとったとですね。

ヌカガ だって大変だったもん、階段ばかりでしょ？

アラカネ そがん大きか荷物ば抱えて、キツかったですね。

ヌカガ これは体の一部みたいなものだから、全然大丈夫。

アラカネ 何の入っとるとですか？

ヌカガ 「命の次に大切なもの」。

アラカネ よっぼどのもんが入っとるとですね。

ヌカガ まあ、そこにあるオブジェ（イチロウ）みたいなもんかな。

アラカネ あれは、体の一部というか、全体というか……。

ヌカガ お見事！ブラーボー！こう……大空との境界線に架ける架け橋みたいなの、まる

で今にも動き出しそうな躍動感みたいなの。いつか私もこんな作品を手がけたい

なあ。

アラカネ お客様さんは……芸術家の方か何か？

ヌカガ いやいや、どこにでもいる『さすらいの芸術家』なんかに、名乗るほどの名前

前はヌカガです。

アラカネ ……ヌカガさん？

ヌカガ ヌカガですが？

アラカネ ……アラカネです。

ヌカガ この作品は、さぞ名のある名工の逸品とお見受けしました。一体どなたが？

アラカネ ……知らんとですか？

ヌカガ この技巧は見たことないなあ……土地の人？

アラカネ これは……私の作品です。

ヌカガ あなたが？

アラカネ はい。

ヌカガ アラカネさん……いや、アラカネ先生！感服しました。

アラカネ 光栄です。

ヌカガ この独特の躍動感。もしや？

アラカネ 自己流です。

ヌカガ なんてちっぽけなんだ私は……先生、しばらく拝見させていただいてもいいですか？

アラカネ もちろんです。満足のいくまで、ご堪能下さい。

アラカネ、笑いを堪えながら、離れる。

ヌカガは、じっくりとイチロウを観賞している。そこへ、シムサが現れる。

七、北部から来た女

シムサ すみません。

アラカネは、シムサの声に気づかない。

シムサ (大きな声で) すみません。

アラカネ はい。あ、いらっしやいませ。

シムサ ココの人？

アラカネ はい、そうですよ。

シムサ カトウ・イチロウって人おる？

アラカネ、一度イチロウに目をやり、再びシムサを見る。

アラカネ カトウ・イチロウは……今、ちょっと目が離せない状況で……。

シムサ は？おると、おらんと？

アラカネ いやその……。

シムサ 「クミコママの娘が来た」って伝えて。

アラカネ ……はい。

アラカネは、誰もいない空間に向けて叫ぶ。

アラカネ 「クミコママの娘が来た」!

シムサ ねえ……馬鹿にしとると?

アラカネ してないです。

シムサ あんたカトウ・イチロウの家族?

アラカネ いや、家族じゃ……。

シムサ じゃあ隠さんで出さんねさ。

アラカネ そういうわけじゃ……。

シムサ 何でもかんでも隠すとやもんね、南部の人間は。

アラカネ ……あんた北部の者ね?

シムサ やけん何?

アラカネ 今すぐ帰ってもらえんやろか?

シムサ は?

アラカネ 北部者に出すもんは何もなかけん。

シムサ 何ね、その言い方。

アラカネ 何ね、って何ね?

又カガ やめなさい!

又カガ、二人の間に割って入る。

又カガ 大の大人がワーワーワー、みっともないよ?

シムサ この女が隠すとが悪かとです。

又カガ 隠す?

アラカネ 北部者の頼みなんか誰がきくもんね。

シムサ は?

又カガ アラカネ先生、そう簡単に話せない気持ちは、よく分かります。ですが私も、この方と同じ気持ちで胸がいっぱいです。

シムサ ほら。

アラカネ は?

又カガ お願いします。どうか私も凡人に、あなたのその技術を教えてもらえないでしょうか?

シムサ ……あんた何の話はしよると?

又カガ だから、このオブリエを……。

アラカネ (又カガを制して) ああ!

又カガ どうしました?

アラカネ 奥の部屋に、これと同じ物のありますけん、そいば見たら分かりますと思ひます
よう?

又カガ 先生……。

アラカネ どうぞどうぞ。

ヌカガ いやあ流石、先生は心が広い。
アラカネ ……あはははは。
ヌカガ (シムサに) 先に良いかな？

シムサはイチロウを見ている。

ヌカガ じゃあお先に……。

ヌカガ、その場を去っていく。

シムサ この人……。
アラカネ あんたが探しとるカトウ・イチロウさ。
シムサ 木になったと？
アラカネ まだ。寝とるだけ。
シムサ 起きろ！カトウ・イチロウ！起きろ！
アラカネ さっき起きとったけん、しばらく起きん。
シムサ ママ待つとるとよ？何しよつと？
アラカネ 起きんって。

シムサはイチロウに蹴りを入れる。

アラカネ ちよつと！
シムサ ……。
アラカネ あんたいい加減にせんねよ。
シムサ 息子がおるとよね？
アラカネ 知らん。
シムサ どこおつと？
アラカネ 言わん。
シムサ 言わんね。
アラカネ もう早うどっか行って。息苦しか。
シムサ 自分たちだけが暈ケ尹の人間ごたる言い方ばして……。
アラカネ そうやろが……寄生虫が。
シムサ あんたねえ……。
アラカネ あたしたち南部のおかげで、暈ケ尹に人は来よつと。あんたたち『バカッ
ペ』は、感謝が足りん。
シムサ 『バカッペ』って、言うた？

マトヤが、現れる。

アラカネ 『バカッペ』に『バカッペ』って言うて、何の悪かと？

シムサ 言うてよかことと、悪かことくらい分からんとね？
アラカネ あたしや、頭の悪かけん分からんと。
シムサ 『マチクイ』に脳みそまでやられたとじゃなかと？
アラカネ 何て？
マトヤ アラカネさん！

マトヤが、アラカネ達の元へ駆けてくる。

ハ：怒りの矛先

アラカネ おお、よかところに来た。こん女は北部の人間のくせに、南部ば……。
マトヤ アラカネさん！
アラカネ ……。
マトヤ 事情は、分からんけど、アラカネさん、言い過ぎばい。
アラカネ は？あんた、この『バカッペ』……。
マトヤ (打ち消して) やけん、そいは言うたらいかん。
アラカネ ……。

アラカネ、シムサの前から、離れる。

マトヤ ……いらんこと言うて、すみません。
シムサ あんたこいつの息子？
マトヤ お父さんが何かしました？
シムサ (笑顔で返す)

シムサはすかさずマトヤの頬を平手打ちする。

マトヤ 痛っ……。
アラカネ あんたマトヤに何の恨みがあるかね？
シムサ このポケ親父が目は覚ましたら伝えて「クミコママとの約束は忘れるな」って。
マトヤ クミコママ？
アラカネ 飲み代は払っとらんとか、そがん話？
シムサ (イチロウを指して) 自分で聞け！

シムサは、足早に去っていく。

アラカネ 待たんね！逃げると？

シムサ、アラカネの言葉に耳を貸すことなく去る。

マトヤ 痛……。

アラカネ 何ね、あの『バカツペ』は……。

マトヤ アラカネさん、そいは言うたらいけんよ。

アラカネ おじちゃん！

イチロウ ……。

アラカネ 起きろ！イチロウ！

イチロウ ……。

アラカネ 何ね、あの女は？

マトヤ さあ？

アラカネ (イチロウを指して) 知っとる人やろか？

マトヤ ごたったね……。

アラカネ 何で北部のもんば知っとると？

ヌカガが現れる。

ヌカガ あの……。

アラカネ (もの凄い形相で) あ？

ヌカガ (気圧されて) 何でもないです……。

マトヤ 何ですか？

ヌカガ あ、いや。奥を隈無く探してみたんだけど、どこにあるのかなあって。

マトヤ 何がですか？

ヌカガ だから……。

アラカネ ああ……ちよっと、説明しますけん。

ヌカガは去る。アラカネは、ヌカガの元へ行こうとして、立ち止まる。

アラカネ 帰ってくるぞ早かったけど、ユウちゃんには会って話したと？

マトヤ 会ったよ。

アラカネ せっかく帰って来たことやけん、こいから仲良くせんばよ？

マトヤ ……。シイばあちゃんの野菜、まだ食べられるごたるよ。

アラカネ そうね、シイばあちゃんじゃ、なかったとたい。

マトヤ ユウちゃんやった。

アラカネ ……。

マトヤ さっきの。

アラカネ ……。早う、言えばよかったね。

マトヤ しょんなかない。

アラカネ ノート。代わりに書いて。

マトヤ そいは、アラカネさんの仕事やろ？

アラカネ あんたが書かんばさ。

マトヤ ……字の汚かけん知らんよ？

アラカネは出て行く。

ゆっくりと陽が落ちていき、夜になり暗くなる。

九、イチロウの秘密

夜。マトヤはノートを開き、書き始める。

マトヤ シイノ・ユウ。暈ヶ尹で生まれた……。

考えながら、少しずつ書くマトヤ。突然、イチロウが目覚める。

イチロウ (寝起きの声で) ああ……。

マトヤ おはよう。

イチロウ イーくん、喉乾いたなあ。

マトヤ、水を取りに行く。

マトヤ 夜の方が、話せるみたいやね？

イチロウ 真っ暗ねえ。

マトヤ 体は？きつか？

イチロウ 大丈夫。

マトヤ、イチロウに水を飲ませる。

マトヤ まだ飲むね？

イチロウ 飲まんと。

マトヤ ……今日さ、女の人 came とさね。

イチロウ うん、来たね。

マトヤ 分かるとると？

イチロウ 北から、来たね。

マトヤ うん……まあね。

イチロウ 北から、来たね。

マトヤ 二回も言うても、面白くはなかよ？

イチロウ ……。

マトヤ ……ねえ、あの人、誰？

イチロウ 誰やらか？

マトヤ 知るとるとやろ？

イチロウ 可愛かったね。

マトヤ 誤魔化さんと。
イチロウ あがん子が好きやろ？
マトヤ お父さんの好きやろ？
イチロウ やけん、マトヤも好きやろ？
マトヤ ……そいで？誰？
イチロウ 教えん。
マトヤ 俺、ビンタされたよ？
イチロウ イーくんもされたよ。
マトヤ いつ？
イチロウ もっと前の話。昨日かな？
マトヤ 昨日は来とらん。
イチロウ じゃあその前さ。スナップの効いたビンタばされたと。
マトヤ ……何ばしたと？
イチロウ 教えん。
マトヤ 教えろ。
イチロウ イヤ。
マトヤ ビンタされたよ？聞く権利あるやろ？
イチロウ (泣いて) ああああ。
マトヤ 何で泣くとね？
イチロウ そがん大きか声ば出さんでもよかたい……。
マトヤ ああ、うん。ごめん。
イチロウ 誰にも言わん？
マトヤ うんうん。言わんけん教えて。
イチロウ でも、クミちゃんに駄目って言われとるけんなあ。
マトヤ クミちゃんって……クミコママって人？
イチロウ クミちゃんと約束したと。
マトヤ 忘れるなって言いよったヤツよね？
イチロウ 一緒に行こうって、言うたとさ。
マトヤ どこに？
イチロウ 本土。
マトヤ ……お父さん、そい……浮気？
イチロウ 違う。……本気さ。
マトヤ そっちの方が、もっとヤバかやつか。
イチロウ 俺はいつでも本気さ。
マトヤ ……そいお母さん、知ったと？
イチロウ ジュンちゃん？
マトヤ そう。
イチロウ 知らんと思う。
マトヤ 言えんかったと？
イチロウ ジュンちゃん、おらんごとなったもん。

マトヤ 天国から、見とったかもしれんよ？
イチロウ ジュンちゃんが？
マトヤ 怒っとるよ？
イチロウ ジュンちゃん、ごめんね……。
マトヤ ちゃんとお母さんに謝らんば。
イチロウ 謝っとるたい？
マトヤ ちゃんと謝らんば。
イチロウ ジュンちゃん、ごめんね……。
マトヤ ……駄目や。

ゆっくりと、暗くなる。

一〇。外から見た暈ヶ尹

一週間後。

明るくなると、アラカネがノートを開いて何かを書いている。

そこへ、コマヌイが現れる。

コマヌイ こんにちは。
アラカネ (ノートを閉じて) 今日は相方は一緒じゃなかと？
コマヌイ 昨日から一人で北部の方に……。
アラカネ そりゃ寂しかねえ。
コマヌイ いや正直、一人の方が何倍も気が楽です。
アラカネ あんた仕事のあるだけ有り難かって思わんば。
コマヌイ そうですよね。……はい。
アラカネ ……何か飲む？
コマヌイ いただけるんですか？
アラカネ (ふざけて) 毒の入っとるけどね。
コマヌイ (アラカネに合わせて) いただきます。

アラカネ、飲み物を準備する。

アラカネ いつまでおると？
コマヌイ カトウさんにご協力頂けるまでは、帰ってくるなって言われまして……。
アラカネ あんた帰れるのかな？
コマヌイ まだ怒ってました？
アラカネ あがん見えて、結構頑固かけん。
コマヌイ そうですか……。
アラカネ 父親に、よう似とる。

コマヌイ、改めてイチロウの存在に気づく。

コマヌイ (イチロウに) こんにちは。
イチロウ ……。

コマヌイ よく寝てますね。

アラカネ 最近は、昼と夜が、反対になつとるごたる。

コマヌイ なんだか、カブトムシみたいな生活ですね？

アラカネ 寝とるごと見えて、耳はしっかり聞こえとるけんね。

コマヌイ (口を押さえる)

アラカネ 悪口言うときは、ロパクで。

コマヌイ 言いません。

アラカネ、コマヌイに飲み物を渡す。

アラカネ はい、毒入りウーロン茶です。

コマヌイ ありがとうございます。

コマヌイ、飲み物を口にする。

コマヌイ ……昨日、野菜を頂いたんです。

アラカネ あ、分かった。シイばあちゃんやろ？

コマヌイ お元気な方で、おいくつですか？

アラカネ 八〇近かだよ。

コマヌイ 私の祖母と同じくらいですか！

アラカネ 「体が動くうちに、することせんば」って、シイばあちゃんの口癖。

コマヌイ 見習わないと。

アラカネ 美味か野菜ば食べるとが秘訣さ。

コマヌイ なるほど……。

アラカネ 美味かったろ？

コマヌイ ……ええ。

アラカネ ……食べとらんとね？

コマヌイ ……調理する、道具がなくて……。

アラカネ ガブツてかぶりつけばよかたい。

コマヌイ そうですよね。そうします。

アラカネ マチクイに罹るかもしれんもんね？

コマヌイ ……そういうことじゃなくて。

アラカネ そいやったら、早う食べんば。

コマヌイ ……怖いんです。

アラカネ ……。

コマヌイ すみません。

アラカネ ま、そうね……。
コマヌイ すみません。

アラカネ 正直言うたらさ、私も怖かよ。北部の研究者は大丈夫って言うけど、分かるんたい？そいけどね……美味かとさねえ。本当よ？
コマヌイ はい。

アラカネ なんだかんだ言うて、何か食わんば生きてかれんけん、どうせ食うなら美味かもんがよかやかね。

コマヌイ そうですけど……。

アラカネ まあ、無理にとは言わんけん。

コマヌイ ……命が繋がってる、とかは思ったことないですか？

アラカネ マチクイの木とダイコンの？

コマヌイ あの野菜も、この島の土から出来てるって思ったたら……。

アラカネ 人が食べる物で、命の無か物ってあると？

コマヌイ ……。

アラカネ 汗ば流して育てた命ば食うか、根ば生やして繋がった命ば食うかの違いじゃなか？

コマヌイ だから美味しいんですかね……。

アラカネ そいは食うてから言わんば。

コマヌイ ……そうですね。

アラカネ 毒は入っとらんけん、食わんば損よ？

コマヌイ はい……。

コマヌイ、飲み物を口にする。

アラカネ そいは入っとるけど。

コマヌイ、口に含んだ物を吹き出す。

アラカネ あんたお行儀の悪かよ？

コマヌイ 毒入ってるんですか？

アラカネ ただのウーロン茶って、本当に毒ば入れるなら、無色透明にするやろ？

コマヌイ あ、そっか……じゃないですよ。

アラカネ あはははは。

コマヌイ もう……。

思わず笑うコマヌイ。

コマヌイ 私、この島に来て、笑ってばっかりです。

アラカネ 楽しかろ？

コマヌイ 仕事になりません。

アラカネ　こんくらいで仕事にならんなら、この島で生きていかれんよ？
コマヌイ　遅しいなあ。
アラカネ　凶々しかとも言うけど。

どこからか、マチクイの歌が聞こえてくる。
ロずさむアラカネ。続けて歌うコマヌイ。
その様子を、アラカネは歌いながら見ている。

一一・暈ヶ尹の危機

コマヌイ　……いい歌ですね。
アラカネ　そうですね。

コマヌイ　ご免なさい。不謹慎でしたか？

アラカネ　そがんことなかよ。あたしも、そがん思うとる。

コマヌイ　島のどこにいても、この歌が聞こえて……。

アラカネ　よか歌やろ？

コマヌイ　ええ。初めて聞いた歌なのに、どこにでもあるメロディで……。

アラカネ　ん？(コマヌイを睨む)

コマヌイ　聞き覚えのあるフレーズが、やたら耳について……。

アラカネ　ん？(コマヌイを睨む)

コマヌイ　(焦って) 耳から離れられなくて……耳を奪われ……お手上げというかむしろ
耳上げ……ご免なさい。私、どんどん悪い方向へ進んでいます。

アラカネ　覚え易か。

コマヌイ　そう言いたかったです。

アラカネ　覚えとってね。最後の一人に、歌う人のいるけん。覚えとって。

コマヌイ　……はい。

アラカネ　……って、話ばしよっと。

コマヌイ　え？

アラカネ　ここに来た観光客に。

コマヌイ　……はい。

アラカネ　こがん話ばしたらね、みんな「覚えています」って言うとよ。

コマヌイ　いい歌ですもん。

アラカネ　社交辞令やろうけど。

コマヌイ　……北部の人も、歌ったら良いのに。

アラカネ　歌わんさ、あそこの者はなんか……人間のいやらしか。

コマヌイ　そうですね？

アラカネ　元々、人もそがんおらんやったくせに……『マチクイ』の出たけん、栄えた
とにさ。研究者とか、なんとかが住み着いて、そいば相手に商売ばするって、
考えの汚かとさ。

コマヌイ　みんながそうってわけじゃ……。

アラカネ まあね。中にはおるよ？たまたまこっちに来とってマチクイに雇った者もおるにはおるさ。でもそが人達は追い出したとよ？おかしかやる？

コマヌイ 私が北部で聞いた話は……ちよつと違います。

アラカネ 何て聞いたと？

コマヌイ 妊婦さんの話なんですけど……。

アラカネ 妊婦……トウコちゃんかな？

コマヌイ です、かね？……変な研究とかされる前に、南部に連れていけば、みんな守ってくれるから……。

アラカネ そがんと、ただの言い訳さ。

コマヌイ そうでしょうか？

アラカネ そうって。

コマヌイ 誤解があるんじゃないですか？

アラカネ やけんって何も変わらん。

コマヌイ ……アラカネさん。

アラカネ ごめんね……変わらんとよ。

コマヌイ ……国の支援がなくなった後は、みんなが協力しないと、もっと辛いことになると思うんです。

アラカネ そうやけどさ……簡単か話じゃなかとよ。時間かかるとよ。

コマヌイ そうも言つてられないんです。

アラカネ 何ねそい？

コマヌイ そうなれば、患者さんの負担は拡大します。

アラカネ 病院代は払うごとなると？

コマヌイ 本土の方では『マチクイ』に関する研究事業の削減も叫ばれて……北部の研究者達が撤退するのも時間の問題じゃないかって……。

アラカネ そがんと許さんよ。まだ、誰も治つたらんとよ？暈ヶ尹は、元に戻つたらんとよ。

コマヌイ 分かってます。財団は暈ヶ尹を見捨てるつもりはありません。だから私が来たんです。カトウさんに協力してもらつて、少しでも暈ヶ尹の力になるために。

アラカネ あんた、そい早う言わんばね。

コマヌイ 言う前にあんなことになってしまつて。

アラカネ ちよつと待つとかんね。すぐ呼びに行つてくるけん。

コマヌイ どちらに？

アラカネ たぶん、さつき歌のしたとこに行けばおるやろう。

アラカネ、駆けていく。

コマヌイ ちよつと待つて下さい！

アラカネ 待たれん。

コマヌイ アラカネさんが行つてしまつたら、ココはどうすれば？

アラカネ 店番よろしく。
コマヌイ よろしくって……アラカネさん！

コマヌイの言葉も空しく、アラカネが出て行く。
シムサは、隠れてやり過ごす。

一二・北部と南部

そこへシムサが現れる。

シムサ すみません。

コマヌイ あ、はい。

シムサ あの……。

コマヌイ えっと……いらっしやいませ、こんにちは『憩いの場』へようこそ。

シムサ あ、いや……。

コマヌイ お茶と、お菓子と、楽しいトークでおもてなし致します。

シムサ いや、その……。

コマヌイ 何か飲みますか？

シムサ ……じゃあ、何があるんですか？

コマヌイ ……何があるんです？

シムサ あはははは……（苦笑）

コマヌイ ウーロン茶！あります。毒が入っていますが。

シムサ え？毒入り？

コマヌイ 冗談です。

シムサ あはははは……（苦笑）

コマヌイ 少々お待ち下さい。

コマヌイ、飲み物を準備する。

シムサ （イチロウを見て）綺麗かですね。

コマヌイ ええ。こんなに綺麗な花を咲かせるんですね。

シムサ 初めてですか？

コマヌイ はい。なかなか見れないとは聞いてたんですけど。

シムサ 私も、こんなに近くて見たのは初めてです。

コマヌイ （飲み物を渡して）どうぞ。

シムサ、飲み物を口にしようとして。

シムサ さっきの話……。

コマヌイ さっきの？

シムサ 北部の研究者が撤退して……。
コマヌイ ……聞いてたんですか？
シムサ 立ち聞きする気はなかったんですけど……。
コマヌイ まだ、非公式なんで、ここだけの話にして下さいね。
シムサ ……本当なんですか？
コマヌイ 残念です……。
シムサ 残念って……簡単な言葉にしてくださいよ。
コマヌイ でも……決定じゃないので、そのためにカトウさんに立ち上がってもらえたら……。
シムサ そうで本当に変わるとですか？
コマヌイ 断言は出来ませんけど……。
シムサ あんまり期待せん方がよかと思えますけどね。
コマヌイ まあ多少、頑固なところがあるみたいですけど、やってくれますよ。
シムサ 鳶が鷹を産むこともなかでしょうから、期待させるだけさせておいて、裏切られるのがオチじゃなかですかね。
コマヌイ 厳しい言い方ですね……。
シムサ (イチロウを見て) こん男は約束は守れんかった男です。南部の人間はそがんとばかりですよ。勝手かどです。
コマヌイ そうですか？親切な方が多いですよ？
シムサ 新エネルギー開発っていう言葉に踊らされて勝手に受け入れて、事故は起こして、『マチクイ』ば晒し者にして……北部は振り回されてばかりですよ。
コマヌイ だから歌わないんですか？
シムサ ……そいは分からんです。難しかとですよ。
コマヌイ そうでしょうけど……。
シムサ 仕事は求めて、知らん人のどんどん増えて、せいけん北部もなんとかなったとは思いますよ？思いますけど……どんどん減っていきよつとですよ。そがんとば見てきたら……なんかですよ。
コマヌイ そうですか……。
シムサ 勝手に決めんかったら、また違ったとでしょうけど。
コマヌイ 受け入れを、南部が？
シムサ そいから暈ヶ尹はおかしくなっちゃって、大人はみんな言うてます。
コマヌイ いや……でも資料には……。
シムサ どがん形で残ってても、そいが暈ヶ尹の事実です。……今更「本当は」とか言われても、何も信じられん。そがんもんでしょ？
コマヌイ ……すみません。
シムサ いや、謝らんで下さい。
コマヌイ 謝らせて欲しいんです。これしか出来ないんで。
シムサ あなたが謝ることじゃなかですよ。
コマヌイ ……すみません。
シムサ それ以上したら怒りますよ？

コマヌイ ……はい。すみません。
シムサ ああ、もう。
コマヌイ いやこれは、そうじゃなくて……(思わず)すみません。ああ……。
シムサ (笑いながら) もう……。笑わんで下さいよ。(イチロウに) ねえ？
コマヌイ ……あら？あらら？
シムサ 何ですか？
コマヌイ 何か今、「許しますよ」みたいな雰囲気でしたよね？
シムサ 私が？
コマヌイ ええ。

シムサはイチロウに蹴りを入れる。

コマヌイ ああ！
シムサ 私は絶対この男を許さんです。
コマヌイ やめて下さいよ。せっかく花が咲いたのに……。
シムサ (イチロウを見て) マチクイの花って、何で綺麗か知ってます？
コマヌイ 綺麗なことに、理由が？
シムサ 花が咲いたら、実がなって、そいが最後。
コマヌイ ……。
シムサ やけん綺麗かとですよ。

一三. ビッグニュース

遠くから、サワタリの声が聞こえてくる。

サワタリ (声だけ) コマヌイくん。コマヌイくん。
コマヌイ はい。

コマヌイ、入り口に向かい、サワタリと顔を合わせる。

サワタリ コマヌイくん。ここにいたのか？
コマヌイ 今日は、帰らない御予定だったのでは？
サワタリ 事情が変わった。ビッグニュースだ。……とりあえず、何か飲み物を。
コマヌイ タダじゃないんですよ？

コマヌイ、飲み物を準備する。

サワタリ、シムサの存在に気づく。

サワタリ あれ？シムサちゃんじゃない？
シムサ ……どうも。

コマヌイ 知り合いですか？

サワタリ あれだよ、北部のスナックにいた娘。(シムサに) ねえ。

シムサ 昨日は、どうも。

サワタリ クミコマママも一緒？

シムサ あたしだけ……。

サワタリ (コマヌイに) ココのマママがさあ、良い女だね。歌が上手いんだ、こりゃ。(シムサに) いや、シムサちゃんも、顔じゃ負けてないよ。全然負けてない。

コマヌイ サワタリ教授。

サワタリ 何？

コマヌイ 何かご報告があるのではなかったんですか？

サワタリ おお、そうだ。金のニュースと銀のニュースがあるけど、どっちが良い？

コマヌイ えっと、ちなみに聞きますけど、その二つの違いは？

サワタリ 銀のニュースは、五つ集まると、金のニュースに。

コマヌイ 分かりました。じゃあ、銀のニュースから。

サワタリ ほう……コマヌイくんはあれだね、美味しい物は最後に食べるタイプだね。

コマヌイ いいから早く言って下さい。

サワタリ ……北部の研究者から、面白い話を聞いた。

コマヌイ 何か分かったんですか？

サワタリ マチクイ患者の進行スピードは、爆発現場にいた人よりも、その後、雨に遭った人の方が早いってね。

コマヌイ 雨……。

サワタリ 遺伝子を組み換えちゃう物質が、事故の瞬間、偶然発生した。それが上昇気流に乗って、雨となって降ってきた。

シムサ そいやったら、何で北部は大丈夫だったんですか？

サワタリ 『マチクイの木』のおかげだよ。

シムサ ん？

コマヌイ もっと分かり易く言うのと？

サワタリ これは、僕の仮説だけどね、大気中の物質は、全て『マチクイの木』が取り込んだんだ。そして、大地に降った雨に含まれた成分。これも根っこから吸収されてしまったんじゃないかな？

コマヌイ 何年かして発症する人が少ないのは、そのおかげなんですかね。

サワタリ 『マチクイ』が、『マチクイ』を防いでいたんだなあ。偉い偉い。

シムサ ……。

コマヌイ 大発見じゃないですか。

サワタリ だが、金のニュースには敵わない。

コマヌイ まだ凄い物があるんですか？

サワタリ ある。あるけど……言えないなあ。

サワタリは、何かをくれというジェスチャーをとっている。

コマヌイ (シムサに) サワタリ教授がああする時は何か欲しい時です。
シムサ 知っています。昨日経験しましたから。
コマヌイ どうします？

サワタリ 貴重な情報には、それなりの対価が、サービスが必要だよね？
コマヌイ ウーロン茶じゃ駄目ですか？
サワタリ サービスが足りない。
シムサ じゃあウーロン茶じゃなくて……。
サワタリ なくて？

シムサはサワタリに近づく。

シムサ お水にします。

シムサはカウンターに向かう。

コマヌイ なんて贅沢！

サワタリ 何で水が贅沢なんだよ？

コマヌイ 暈ヶ尹では貴重なんですよ？

シムサ あれ？お水がない。

コマヌイ そうなの？

サワタリ 困ったねえ……水がなければ……。

シムサ 探してきます。

サワタリ ……だよね。

シムサは小屋の中へ入っていく。

コマヌイ さあ、金のニュースを話してもらいましょうか？

サワタリ 端からコマヌイくんには話すつもりだよ。

コマヌイ 騙されませんかからね、そういうのには。

サワタリ (紙を取り出して) 見て見ろ。

コマヌイ マチクイ患者の……一部持ち出し許可証？

サワタリ 駄目なんだよ。本当はね。北部の研究者に掛け合ったんだけど、埒が明かなくてさ、国に申請したら、なんと一発オーケー。こんなことなら早くしておけば良かったな。

コマヌイ 一部ってことは……。

サワタリ そりゃもちろん、伐って持って行くんだよ。(イチロウに触れて) どこが良いかな？

コマヌイ イチロウさんを伐るんですか？

サワタリ 折っても良いけど？

コマヌイ どっちにしたって今すぐっていうわけには……。

サワタリ 私は解明したい。あんたらは結果が欲しい。利害は一致してるはずだろ？
コマヌイ だからって……。

一四、木を伐る

小屋からシムサが現れる。

シムサ やめて下さい。

サワタリ 早かったね、シムサちゃん。お水、頂こうかな。

シムサ その人ば伐らんで下さい。

サワタリ ……シムサちゃんの口からそんな言葉が聞けるなんて驚きだなあ。

シムサ 人ば伐るって、おかしかですよ。

サワタリ はっはっはっは、いいかい？これは人じゃない。

シムサ 人です。

サワタリ こいつには細胞壁がある。北部の研究でもそこまで分かってるんだ。これはもう、人じゃないんだ。

シムサ それでも……。

サワタリ 怒ったり、悲しんだり、あと少しすれば考えることも出来なくなる。完全に木になれば、分かることも分からなくなるんだよ。

シムサ ……。

サワタリ 大丈夫だ。ここまで進行が進んでたら痛点なんてないし、どうせまた生えてくる。(垂れ下がっている蔓を指して)一緒だよ、これと。

シムサ そいも繋がるととです。島中が繋がって、野菜も美味しく、北部も助けられて、吸い取って……なんかあるじゃなからですか、そこに。

サワタリ 残念だけど、そんな感情論に付き合うつもりはないから。

サワタリがイチロウに近づこうとするとシムサが立ち塞がる。

サワタリ あのね……(許可証をシムサに向けて)これ、強制権あるんだよ。止めても無駄だから。

コマヌイ (サワタリに)葉っぱとかじゃ駄目なんですか？

シムサ そいなら良かです。

コマヌイ ですよね？遺伝子を調べるなら髪の毛一本でも出来るじゃないですか、それなら葉っぱ一枚で……。

サワタリ あのな、私は医者じゃないんだよ。遺伝子治療するつもりはないの。

シムサ 治す気なかとに、持って帰ると？

サワタリ 育ててみるんだよ。治療をするのは、医者の仕事でしょ？

コマヌイ 約束が違います。

サワタリ 現場での判断は私に一任されている。それなりの覚悟があつてそう言うのかな？

コマヌイ 私は……ただ……。
サワタリ そこまで馬鹿じゃないんだろ？
コマヌイ ……。

サワタリ (イチロウに) 一緒に本土に行こう。なあ、お父さん。
イチロウ 呼んだ？

サワタリ わあ、ビックリしたあ。
コマヌイ (イチロウに) 起きてたんですか？

イチロウ ねえ、誰か呼んだ？
シムサ 私が呼びました。

イチロウ あ！クミちゃんだ！
シムサ あ！クミちゃんの、娘です。

イチロウ え、嘘。クミちゃんやろ？
シムサ ああもう、クミちゃんが良いです。逃げて下さい。

イチロウ は、いい。
コマヌイ 動けないんだから、逃げられるわけないでしょ？

シムサ う、ん。
イチロウ に、げろ。

コマヌイ サワタリ教授、どんなに強制力があっても本人の意志は尊重されますよね？
サワタリ この木に意志もクソもないだろう？

コマヌイ 話してみないと分からないじゃないですか。
サワタリ さっきも言った通り、感情論に付き合う時間はない！

コマヌイ 何でそんなに頑固なんですか？
サワタリ 頑固じゃない、理性の固まりと言ってもらおうか。

サワタリに近づくシムサ。

シムサ (サワタリを誘惑して) サワタン……。

サワタリ ……五分だけだよ？
シムサ ありがとう。

コマヌイ 理性が本能に負けた……。
シムサ (コマヌイに) 早く！

コマヌイとシムサは、イチロウの正面に回り込む。

コマヌイ イチロウさん。良く聞いて下さいね？
イチロウ は、いい。

コマヌイ マチクイ患者の一部持ち出し許可証が受理されました。このままでは、あなたの体が伐り落とされてしまうんです。分かりますか？

イチロウ (泣き出して) わからな。い。
コマヌイ 泣かないで、泣かないで。

サワタリ な？思った通りじゃないか。
シムサ イチロウさん。

イチロウ クミちゃんだ。

シムサ クミちゃんの話、聞いてくれるかな？

イチロウ クミちゃん、僕、モミモミしたい。

シムサ え？

イチロウ おっぱいが欲しいよ。

シムサ、イチロウを殴る。

コマヌイ 殴っちゃ駄目！

シムサ ママは何で、こがん男を……。

コマヌイ イチロウさんを三歳児だと思って。

シムサ 三歳児……。

イチロウ クミちゃん、遊ぼう？

シムサ 遊んでる場合じゃ……そっか。

シムサはイチロウに耳打ちをする。

サワタリ そろそろ良いかな？

コマヌイがサワタリに近づく。

コマヌイ (サワタリを誘惑して) サワタン……。

サワタリ 何がしたいんだ？

コマヌイ クツソ……バカ、バカ。

サワタリ 何に怒ってるのか、さっぱり分からん。

シムサ (コンコソ話で) お待たせしました。

イチロウ おまたせしました。

シムサ (コンコソ話で) 先ほどの件ですが。

イチロウ さきほどのカンですが。

シムサ (コンコソ話で) 件ですが。

イチロウ ケンですが。

サワタリ いや、ちょっと待て。

コマヌイ 何ですか？

サワタリ おかしいだろう？どう見ても。

シムサ 何もおかしくなかつた。(コマヌイに) ね？

コマヌイ イチロウさんの意志です。

サワタリ いやいやいや、おかしいおかしい。

シムサ (コンコソ話で) 私は。

イチロウ わたしは。
サワタリ ダメダメ。
シムサ この腕を。
イチロウ このうでを。
サワタリ ダメだって。

遠くから、ヌカガの声が聞こえる。

ヌカガ (声だけ) もってけ、泥棒！
イチロウ もってけ、どろぼう！
サワタリ やったー。
イチロウ やったー。
サワタリ 同意が得られたようだ！
シムサ 待って、ちょっと待って。
コマヌイ 今の無し。

ヌカガが現れる。

ヌカガ くっそ、足下を見やがって……あいつら芸術というものが、まるで分かってない。

ヌカガの目に、言い合いをしている三人姿が映る。

シムサ 起きて！おじさん、起きて！
サワタリ 本人の意志を尊重するって、言ったじゃないか。
コマヌイ おかしいって言ったの、サワタリ教授でしょ？
ヌカガ 何してんの！

サワタリは、イチロウから離れ、少し落ち着く。

シムサ あんた……。
ヌカガ (シムサを見て) あんた、この間の……。
シムサ 助けて下さい。
ヌカガ イヤだ！
シムサ (サワタリを指して) この人が、この作品は無茶苦茶にするんです！
ヌカガ は？
シムサ 腕を、腕を無理矢理、折ろうとしているんです。
ヌカガ (サワタリに) あんた！これが何だか分かってるの？
サワタリ ……木だ。
ヌカガ そう！……でも、ただの木じゃない。これはね、気になる木。

シ・コ そうじゃないでしょ！
ヌカガ ……間違った！木になる人。究極の美。
サワタリ ただの木だ。

ヌカガ 違うよ！木になりたくはない、けれど木になってしまふのが気になって気になつて木になつてしまふ。そういうこと！

サワタリ よく分かんねえよ……。

ヌカガ 私も分かんないよ！

サワタリ 誰かコイツをつまみ出せ。

ヌカガ 聞きなさい！私が言いたいののは、この美しい芸術を中途半端に折っちゃ、いけないつてこと。

シ・コ その通り。

ヌカガ そうじゃなくて……（バッグから、斧を取り出す）一気にやりなさい。

サワタリ 良いもの持つてるじゃないか。

シ・コ ええ。

サワタリ、斧を振りかざす。

コマヌイ 駄目！

シムサが、サワタリとイチロウの間に立ちふさがる。

サワタリ シムサちゃん、そこどいて。

シムサ イヤ。

ヌカガ 小娘。銭担いだ金太郎には勝てないよ？

シムサ やってみんね。

コマヌイ バカ言わないで。

シムサ、サワタリの目をじっと見ている。

シムサ あんた達がしようとしとることは、こがんことになるとよ。この人の体からは、血の出らんかもしれんけど、同じ事ばしよるとよ？

サワタリ ……。

マトヤとアラカネが現れる。

マトヤ アラカネさん、この事態ば、どがん風に理解すればよかと？

アラカネ あんた達何ば、しよつと？

コマヌイとヌカガは、二人の方を振り返る。

が、シムサとサワタリは、睨み合ったまま動かない。

コマヌイ サワタリ教授が、イチロウさんの腕を伐り落とそうとして……。
アラカネ 何て？

マトヤ (サワタリに) わい、何ば、しよっとか！

アラカネ (マトヤを止めて) 危なか！

サワタリ (シムサに) どいて。

シムサ イヤ。

サワタリ 切るって言っても、木なんだよ？

シムサ 違う。

サワタリ (イチロウの頭に生える枝を指して) じゃあ、あれは何なんだよ。どう見ても枝
だろう？

シムサ 違う。

サワタリ シムサちゃん。

シムサ そいやったら、私の腕ば斬ってみんね。

マトヤ ……。

シムサ ほら……ほら！

サワタリ、振りかざしていた手を下ろす。

サワタリ やゝめた。

一五. お母さん

サワタリがイチロウの側を離れた瞬間、シムサの元へ駆けよるコマヌイ。

マトヤは、イチロウの元へ。

アラカネは、サワタリに斧を渡すよう手を差し出すが、サワタリは斧をヌカガに返す。

ヌカガ やらないの？

サワタリ ここではね。

ヌカガ なるほど。

アラカネ どがん意味ね？

サワタリ どうせ同じような木が、島中にあるからね。伐りたい放題って事でしょ？

シムサ そがんこと、させんけんね。

アラカネ あの子の、ビンタ、痛かどよ。 (マトヤに) ねえ？

マトヤ 一瞬、河の見えるけんな、覚悟しとけよ。

コマヌイ ……そんなに？

ヌカガ (苦笑)

アラカネ 何、笑いよっとね？

ヌカガ 面白いよね、本当に面白い。

アラカネ は？

ヌカガ だって、そうでしょ？すでに『マチクイの木』を伐り落としたという事実があるのに、今更、そんなこと言うって……。

シムサ 何ば言いよつと？

アラカネ 騙されんごとせんば。そがんことで、揺さぶりばかりかけてきても、引っかかるわけなかない。

ヌカガ そのテーブル、よく見て。

コマヌイ テーブル？

ヌカガ その椅子も、テーブルも、ココに見えるもの全部、『マチクイの木』じゃないの。

シムサ これが……？

ヌカガ 私が、何年木を見てきていると思うの？

マトヤ このテーブルは、ずっとうちにあったテーブルで……小さい頃から、ずっと……。

ヌカガ 長持ちするって、良い仕事だね……素晴らしい。実に素晴らしい芸術だね。

これを作ったのは、誰？（マトヤに）あなた？（アラカネに）あなた？

マトヤ ……お父さんです。

ヌカガ そうか、この方が……良い腕してるねえ。

マトヤ でも、そがんこと、お父さんは一言も……。

サワタリ 言うわけないよな？だって、これ。元は人だもんな？

アラカネ おじちゃん、どがんなつとつと？答えてよ。おじちゃん。

イチロウ ……ん、あ？

コマヌイ 起きた。

アラカネ おじちゃん、このテーブル、マチクイの木から作ったと？

イチロウ みず、ちょうだい。

アラカネ おじちゃん！

イチロウ （テーブルに）ジュンちゃん……こわいよ。

マトヤ ……お母さん？

アラカネ こい……おばさん？

イチロウ ジュンちゃん……。

混乱し、ドアの方向に後ずさりするマトヤ。

マトヤは思わずドアに触れ、その手の感触に嫌悪感を感じ、走り去る。

辺りは、ゆっくりと暗くなっていく。

一六．アラカネの事情

次の日の昼間。

明るくなると、イチロウを見ているアラカネがいる。

イチロウの体に咲いていた花は枯れ、実がなっている。

アラカネ おじちゃん……まだ聞こえとる？
イチロウ ……。
アラカネ おじちゃん……。

マトヤが現れる。マトヤは、アラカネを無視して、奥へ行こうとする。

アラカネ 待たんね。

マトヤ ……。

アラカネ (実を指して) 何も思わんと？

マトヤ ……いつ出来たと？

アラカネ 朝来た時には、もう……。

マトヤ もうすぐやね……。

マトヤ、奥へ行こうとする。

アラカネ そいでよかと？

マトヤ よかって？

アラカネ さっきコマヌイさんに聞いたよ？

マトヤ そっか。

アラカネ 正式に断ったとってね？

マトヤ うん……。

アラカネ そいで？どこ行くと？

マトヤ ……。

アラカネ このまま、出て行くとね？

マトヤ うん……。

アラカネ おじちゃんば、おいて？

マトヤ うん……。

アラカネ もう……許してやらんね。最後までそがんって、おじちゃんもきつきたい。

マトヤ 許せるわけなやかやつか。こがんもんにして……。

アラカネ そいなら、どがんすれば良かったと？燃やして墨にして、墓に入れとけば良かったと？

マトヤ そのままにしとけば良かったと。そいやったらいつでも会えるし、まだ生きとるって思えるやかね。みんなそがんしよるたい。

アラカネ 何か理由のあったとき。

マトヤ ……アラカネさんには関係なかけん放つといて。

アラカネ そうね。そりゃ、あたしには関係なかなね？自分だけ島の外に出れるとやけん。あたしは、こがん体ですから、島から外には出させてもらえんけんね。

マトヤ ……出ようと思えば、出れるとじやなかとね？

アラカネ 隠れて出て行けってね？

マトヤ 北部に行つて、港から船ば借りれば、本土には行けるとじやなかと？

アラカネ どうせ本土に行っても、みじめな思いして帰ってくるしかなくとよ。ユウちゃんのごと……。

マトヤ ユウちゃんとアラカネさんは違うやろ？

アラカネ 何の違うと？

マトヤ だってアラカネさんは、『マチクイ』じゃなかやかね。

アラカネ 何ば言いよつと？

マトヤ 『マチクイ』のフリして島ば出る勇気のなかだけやつか。

アラカネ あんたそい誰に聞いたと？

マトヤ ……本当やったとね。

アラカネ ……。

マトヤ バカばかりやな……。お父さんも、アラカネさんも。

アラカネ じゃあ、どがんにして、生きろって言うと？いつ木になるかも分からんとに、

ビクビクしながら生きて、中途半端に発症もせんで、毎日こがんとこで、いつ来るかも分からん観光客ば待つて、どがんにして生きればよかと？

マトヤ やけて、ついてよか嘘と、悪か嘘があるやろ？

アラカネ 嘘ばついて生きられるなら、そいでよかたい。

マトヤ やけん、嘘ついたと？

アラカネ そうさ。『マチクイ』になれば、国からお金ももらえるし、病院もただやし、ビクビク生きる必要もなかけんね。

マトヤ ……何かして、働けばよかやつか。

アラカネ あんた……あの姿ば、見とらんけん言えとよ。

マトヤ ……。

アラカネ あの時、爆発で何もなくなった真つ新な土地に、集まってきた人達の群れ。

折り重ねられた人々。水ば求めて、木になっていく人達の声。(外を見て)あの大きか木ば見る度に、そいば思ひ出すとよ？

マトヤ ……。

アラカネ 恐ろしくて、子供ば作りきらん人の、何人おるて思うと？うなされて夜も眠れん人の、何人おるて思うと？前に歩きたくてもねえ、心に根の張って、歩ききれん人もおるとよ？

マトヤ ……。

アラカネ 心だけ木になってしまった人は、マチクイにはなれんと……。

マトヤ ……。

アラカネ あたしは見捨ててもよかけん、そいば覚えとつて……。

ヌカガとシムサ話しながらやって来る。

一七. 魂の生かし方

ヌカガ こんなところに、私を知っている方がいるなんて、チョー嬉しい。
シムサ ヌカガさんの彫られた『犬の驚いた姿』。私の宝物なんです。

ヌカガ そんな大したもんじゃないよ。家宝にでもしてね。

ヌカガ、マトヤとアラカネに気づく。

ヌカガ ただいま。

アラカネ お帰りなさい。どこ行っとったとですか？

ヌカガ いやいやお師匠さま。ちよいと野暮用で。

アラカネ 野暮用？

シムサ トウコちゃんの様子ば見に。

アラカネ ああ……。

ヌカガ (シムサに) あれ、明日にでも生まれるんじゃないかな？

シムサ だから生まれんですって。

アラカネ 順調なら何より。

ヌカガ シムサちゃん、前祝いしよう？

シムサ 飲みただけでしょ？

マトヤ もう閉めますけん……。

ヌカガ は？まだこんな時間じゃないの。

シムサ 何か用事のあるとですよ。

ヌカガ そっか……じゃあ明日。

マトヤ 明日も休みです。

ヌカガ じゃあ……。

マトヤ 明後日も、明後日も、ずっと休みです。

シムサ それって……。

マトヤ 今日で、『憩いの場』は、閉店します。

ヌカガ お師匠さま、ホントですか？

アラカネ そがんなったみたいです。

ヌカガ オーマイガー。

シムサ そうですか……残念かですね。

アラカネ ……。

ヌカガ この場所は、私の作品を変えてくれた……。

アラカネ 大げさかですよ。

ヌカガ いやいやお師匠さま。人生の変わり目なんて、どこに転がってるか分かりませんよ？ちよっとずつ形を変えながら、人生という作品を作り続けるんです。

自分で作ったり、誰かに作ってもらったり。

シムサ ……そうですね。

ヌカガ そもそも人生とは……。

アラカネ 長くなりそうなのでその辺で。

ヌカガ ああそうですね……。では、私の人生のページに、この木を一本……。

ア・シ ダメです。

ヌカガ ……枝を一本……。

ア・シ ダメです。
ヌカガ ……分かりました。サヨナラ、お父さん！

ヌカガはイチロウにハグをする。

ヌカガ (声色を使って) 「私を伐って。」何ですって！あなたを？「お願い、ヌカガさん！」「うーん、仕方ない。伐りましょう！」「さすがヌカガさん！」(アラカネにじゃあ伐ります！)
アラカネ ダメだって言ってるの。

アラカネは団扇でヌカガの頭を叩く。

ヌカガ シムサちやうん……。
シムサ 私に擦り寄られても困ります。
ヌカガ ……私にはね、お父さんの気持ち手が取るように分かるの！
アラカネ 勝手なこと言わんと。

ヌカガ この島に伝わる歌があるでしょ？あれと同じ。
シムサ マチクイの歌？
ヌカガ あの歌と同じように、魂を残したかったの。
アラカネ 魂？

人間であった頃の証っていうのかなあ……この島の空気って、すごく綺麗でしょ？木になって、島を浄化したいっていう想いもあれば、他にも色々な想いがあると思うの。お父さんは、その想いを叶えたかった。

シムサ 色んな想い……？
ヌカガ 心優しい人には、優しい人の。そばにいたいと思う人には、そばにいるための。それが、木に宿る魂の生かし方なの。
マトヤ お母さんの想い……。
ヌカガ そのテーブルはね。ずっと君のそばに、居続けたかったんだよ。
アラカネ ……ヌカガさんもたまにはよかこと言いたい。

突然、イチロウがシャックリをし始める。

イチロウ ヒック……ヒック……。
マトヤ お父さん。
アラカネ おじちゃん。
シムサ イチロウさん。
ヌカガ ほら、シャックリだよ。水持って来て。
アラカネ マトヤ、楽にしてやって。
ヌカガ ねえ、何してるの？水。
イチロウ ヒック……ヒック……。

マトヤ 何で今こげんなると？
アラカネ 早うして。おじちゃん苦しんどうたい。
マトヤ やっと分かったとに……もっと教えてよ。
アラカネ マトヤ！あんたのお父さんやろ？

マトヤ、イチロウの体になっている実を取る。
イチロウのシャックリが止まる。

アラカネがマチクイの歌を歌い始める。
続けて歌うマトヤ。なんとなく歌うヌカガ。シムサは小さく口ずさむ。
やがて歌が周りから響いてくる。そしてゆっくりと消えていく。

アラカネ (シムサに) ありがと。

シムサ 私……その……。

アラカネ よかとよ。まあ、何か分かるけん。今はそいでよかさ。

シムサ ……私、歌がヘタなんです。

アラカネ そしたら尚更たい。

ヌカガ ヘタは、ヘタなりに、魂込めて歌いなさいよ。

アラカネ あんたが言うな。

雨が降ってくる。

シムサ あれ？

ヌカガ 雨？

アラカネ こっちに。ほら、マトヤも。濡れるよ？

小屋の軒下集まる面々。マトヤはイチロウを見ている。

アラカネ マトヤ。

ヌカガはアラカネの肩を、ポンと叩く。

そこへ、牧師姿のケンスケがやってくる。

一八、マチクイの実

ケンスケ こんにちは。

アラカネ ケンスケ。

ケンスケ (マチクイの実を見て) あ、やっぱりそうですか……。

マトヤ 逝ってしもうた……。

ケンスケ 親父さんですよね？

マトヤ (頷く)

アラカネはケンスケに傘を渡す。

アラカネ ありがとね。
ケンスケ ああ、すみません。
アラカネ (マトヤに) ほら、あんたも。
マトヤ よかよ。
シムサ 私、持ちます。

イチロウに手をかざすケンスケ。それを見守るマトヤとシムサ。
アラカネは軒下に戻る。

ヌカガ (ヒソヒソと) 誰?
アラカネ (ヒソヒソと) マトヤの後輩。牧師さん。
ヌカガ (ヒソヒソと) それは見れば分かる。
アラカネ (ヒソヒソと) こがんして、『マチクイ』になってもうた人達の所ば、回りよ
つと。

ケンスケ (小さな声で) 主よ。悲しみの中にあるとき、どうして幸いであることができる
のか、教えてください。アーメン。

マトヤ ……ありがとう。
ケンスケ 俺がやっとならば、慰めにしかならんですけど。

ヌカガ 本物の牧師じゃないの?

ケンスケ 元々は、医者やっとならば。

ヌカガ 医者が牧師に。魂の場所を探す旅みたいだね。

ケンスケ 医者ばしよっても、マチクイの患者さんにしてやれることは何もなくて…
…。こがんことしか出来んとですよ。

アラカネ みんな感謝しとるよ。

ケンスケ ……マトヤさん、どがんしますか?

マトヤ 時間なかとよね?

ケンスケ とりあえず、一週間くらいは、このまま水ば、やっとならば大丈夫ですけど、
燃やさんとやったら、どこか土のあるとこに移した方がよかですね。

マトヤ まだ決めきれとらんとさね。

ケンスケ 早うせんばですよ?

マトヤ うん。

ケンスケ マチクイの実は?こっちで引き取っても良かですけんね。

マトヤ こいは……持っとならば。形見みたいなもんやし。

ケンスケ 処分に困るごたつたら、言うてください。

マトヤ ありがとう。

ケンスケ とつとなら、すぐ冷蔵庫に入れて下さいね。後々大変かですけん。

マトヤ そうやな……。

マトヤ、奥へ行く。

ヌカガ (アラカネに) 大変って？

アラカネ ようあるとよ。形見にして持っとって、腐らかしてしまう人の。
ケンスケ 故人に対して持っとった悲しか気持ちだが、いつの間にか怒りに変わってしま
うとです。

ヌカガ まさか……破裂するの？

アラカネ 滅茶苦茶、臭かと。

ケンスケ そがんなったら、せつかくの気持ちだが、おかしかことになりますけんね。

ヌカガ ……ちなみにさあ、アレ食えるのかな？

アラカネ ヌカガさん。

ヌカガ 別に私は、食いしん坊だから聞いたんじゃありません。

シムサ 不謹慎です。

アラカネ あんた魂の生かし方とか言うてる割には、おかしかことば言うとね？

ヌカガ じゃあ、どうするのさ。ずっと冷蔵庫に入れておいたら、誤って何かの料理
に使ってしまうじゃない。

アラカネ そがんことせんよ。

ヌカガ する！

アラカネ せん！

ケンスケ マチクイの実は、元々体の一部ですけん、一緒にするとが普通なんです。

ヌカガ する！

アラカネ せん！

ケンスケ 燃やす場合はお墓の中に、土に移す場合はその木の下に埋める。

ヌカガ する！

アラカネ せん！

ケンスケ ……って、俺の話、誰も聞いとらんですね。

シムサ 聞いてます。

ケンスケ どうも……。

ケンスケ、シムサをじっと見る。

一九、クミコママ

アラカネ (ヌカガに) やかましいーあんた、とっとと本土に帰らんねさ。あんたに食わ

せる物はもう何もなか。シムサちゃん、塩巻いて。塩。

シムサ 私？

ケンスケ やっぱ、そうたい。あんたシムサちゃんてしょ？

シムサ ……はい。

アラカネ 知っつとつ？

マトヤが戻ってくる。

ケンスケ マトヤさん、ほら、話したでしょ？俺が北部におった頃お世話になった、マの娘さん。

マトヤ え？シムサさんが？

シムサ そいで、さっきからあたしのこと……。

ケンスケ いやあ、よう似とるなあって思うたですよ。

シムサ よく言われます。

ケンスケ クミコママ、元気にしとるとですか？

シムサ 今、ちよっと体ば、壊しとって……。

ケンスケ マチクイじゃなかですよね？

シムサ ただの風邪です。

ケンスケ 良かった。

アラカネ 何ば心配しよっと？北部の人は、山向こうやけん、マチクイになるわけなかない。

ケンスケ クミコママ、若か頃、南部におったじゃなかですか。

シムサ ママが南部に？

ケンスケ 何ば言いよっとですか、俺たち南部の人間は、クミコママにだけは、足向けて寝られんですよ。

アラカネ 何で？

ケンスケ だって、マチクイの歌ば、最初に歌ったと、クミコママですたい。

全員、驚いて何も言えない。

ケンスケ あれ？どがんしたとです？

ヌカガ 非常に興味深い話だね。それは。

ケンスケ 親父さんから、聞いたとるでしょ？

マトヤ 何も。

ケンスケ クミコママからは？

シムサ 初耳です。

ケンスケ ……あ、洗濯物干しっぱなしやなあ。

ヌカガ ケンスケくん。

ヌカガ、斧を取り出す。

ケンスケ 何ですか？その斧は。

ヌカガ 別に。

アラカネ ちゃんと話して。

ケンスケ ……ちゃんとして言われても。

アラカネ マチクイの歌は「一人の少女が最初に歌った」とじゃなかと？
ケンスケ えいと、うん。それ大正解。俺は、何か勘違いばしとったごたるね。うん。
アラカネ ヌカガさん。

ヌカガ、斧をケンスケに近づいて威嚇する。

ヌカガ ♪まーさかーリーかーついだ、きーんたーろーおー♪
シムサ うちのママ、事故の時は二〇代でした。
マトヤ どう考えても、少女じゃなかよね？
ケンスケ ……こん話、うちの親父が酔っぱらった時に、聞いた話ですけん。
アラカネ 酔わんば出来ん話やったとたいね。
ケンスケ 今更、そがん話ば聞いても、ねえ……。
アラカネ ヌカガさん。

ヌカガ、斧をケンスケに向ける。

ヌカガ どこがいい？
ケンスケ 話します。

マトヤ ケンスケ、なんで嘘の話になつとるとや？
ケンスケ そいは、クミコマママが北部の人間やったですけん……。
アラカネ やけん何ね？

ケンスケ そがん恐か顔せんでよ。俺が悪かわけじゃなからう？
マトヤ よかけん、話の続きば。

ケンスケ やけん……第七号工場の事故の後、『マチクイ』の蔓延した南部に、北部の人間は、自業自得って思うたと。

アラカネ 何ば言いよつとね。北部の人間も、そいで生活しとつたところもあつたやろ？

マトヤ ああ、もう。そいは、蒸し返さんちゃよか。
シムサ でも、北部から南部に、かなり支援はしたとてしよ？

ケンスケ うん。食べ物とか、飲み水とか、南部の中心地が無茶苦茶になったとてすけん、そいで助かつたつて言う人も多かとてす。

マトヤ そいやつたら、支援してもらうたとに、アラカネさんごと北部に文句ば言うとはおかしかたい。

アラカネ でも、うちのお母さんとかずつと文句言いよつたよ？
ケンスケ そいは、北部は物しか送らんで人ば出さんかつたけん。

アラカネ ほら、結局北部は南部ば見捨てたとたい。

マトヤ そい、見捨てたつて言わんやろ？
アラカネ 言う。

マトヤ なんかよう分からん病気の流行つとるとこに、わざわざ行く人間のどこにおると？

アラカネ (納得せず) まあね。

ケンスケ そこに現れたのが、シムサちゃんのお母さん、クミコママです。

ヌカガ 救世主の登場だね。

ケンスケ 当時、看護婦やったクミコママは自らの危険ば顧みず、傷ついた者、マチクイに罹った者の手当ばしたとです。

ヌカガ 「大丈夫ですか?」「すぐ楽になりますからね」「お客様の中で、お医者さまはいらっしやいませんか?」

アラカネ うるさい。

ケンスケ そいけど、さっきも言うたごと、マチクイ患者にしてやれることって、何もなかったとさね。そこでクミコママは、その人達の心ば、少しでも安らげようとして、『マチクイの歌』ば歌ったと。

アラカネ ……よか話たい。

ヌカガ なかなか出来ることじゃないよ。

ケンスケ 一緒に歌う人が一人増え、また一人、また一人、いつのまにか南部では、『マチクイの歌』ば歌うごとになっていった。クミコママは、自分は北部の人間やけんって『一人の少女が』って言うていったとって。

全員が何かを考え、静かな時間が流れる。

アラカネ ……何でこがんなったとやろう。

ケンスケ 何も違わんとにね……。

ヌカガ もっと沢山の人に、この話を伝えるべきじゃないの?

ケンスケ そいが気に入らんって、言う人も沢山おるとです。

マトヤ ケンスケの言うごと、シムサさんのお母さんには、頭が上がらん。(シムサに) ありがとう。

シムサ そがん言うてもろうたら、喜ぶて思います。

コマヌイとサワタリが現れる。

二〇. マトヤ発症

サワタリ (コマヌイに) 牧師がいるってことは、間違いないんじゃないのか?

コマヌイ カトウさん、さっきの歌、もしかしてって思って来たんですが?

アラカネは傘を差してコマヌイに近づく。

アラカネ そう。おじちゃんが……。

コマヌイ そうですか……。

サワタリ 完全に、木になってしまったか……そっか……。

アラカネ あんたでも、悲しむことがあるとね?

サワタリ 途中段階だからこそ、意味があったんだよ。

アラカネ ああ、そりゃ残念でしたね。

ヌカガ 他にアテがあったんじゃないの？

サワタリ うるさいぞ。

アラカネ (コマヌイに) やっぱり駄目ね？

コマヌイ 全滅です。

サワタリ 誰だ、この島の人間が親切だって言ってたのは。協力する気がまるでないじゃないか。

アラカネ 頼み方が悪かとき。

サワタリ 私の頼み方のどこに問題があるんだ。言ってみろ。

シムサ 人の気持ちは、強制権とかいうチカラでは、解決出来んとですよ。

サワタリ 紹介状書いてくれないか？

アラカネ 書き方分からん。

サワタリ 不親切な上に、ケチと来たか。

アラカネ ケチで結構。

サワタリ じゃあこうしよう。取引だ。

アラカネ 何ば言われてもする気はありません。

シムサ 諦めたらどがんですか？

サワタリ ここに、病院で入手したマチクイ患者のリストがある。

シムサ そいが何ですか？

サワタリ (アラカネに) こっちが役場に登録されたマチクイ患者のリスト。この二つを照

らし合わせると、不思議なことが判明した。

アラカネ えくと、ちよつと下で話しましょうか。

ケンスケ 何で？どがんかしたと？

アラカネ (棒読みで) 凄い雨だ。濡れちやうよく。

ヌカガ こっちで話せば良いじゃない。

アラカネ とにかく下に行きましょう。ね？

ケンスケ 何か怪しかね？

ヌカガ かなり匂う。

アラカネ マチクイの実、腐ってきたとじゃなか？

ケンスケ そがん早う腐らんよ。

アラカネ じゃあ何の匂いやろうね。

シムサ コマヌイさん、何のあったとですか？

ケンスケ 何か異常があったとですか？

アラカネ ほら、風邪引いたら大変かやろ？

ヌカガ 聞きましょう？

コマヌイ 実は……病院のリストにアラカネさんの名前が無いんです。

シムサ ない？

ヌカガ 無いってどういうこと？

ケンスケ マチクイに罹った人は、みんな病院で検査するんです。病院に行つたらんっ

てことになるよ、例え病気になっとったとしても、何の援助もされんのです。
シムサ　じゃあ、早く行かないと。
アラカネ　そうね……。

サワタリ　でも、おかしいんだよなあ。役場には、名前があるんだよ。
ケンスケ　アラカネさん、認定されとるもんねえ。

ヌカガ　何かおかしくない？
シムサ　おかしかですわね……。

ケンスケ　……まさか。

アラカネ　ふざくつともいい加減にせんね！あんたち！今聞いた話、全部忘れて！
ケンスケ　は？

アラカネ　忘れなさい！雨と一緒に全部水に流しなさい！

サワタリ　……上手いこと言ったつもりなんだろうか？

ヌカガ　人間、ああはなりたくないもんだね……。

アラカネ　やめて……。

アラカネは、テーブルの下に潜り込む。

ケンスケ　どがん手ば使ったのですか？

アラカネ　役場で頼み込んで……。

ケンスケ　誰に？

アラカネ　ケンスケのお父さんに……。

ケンスケ　親父に？

アラカネ　だって、生活出来んごとになってきたし、仕事もなくなってしもうたし。

ヌカガ　だからって、やっていいことと悪いことがあるんじゃない？

アラカネ　悪気はなかったとよ？

サワタリ　これ、バレたら、ビックリするだろうなあ？

アラカネ　忘れて、お願い。水に流して……。

シムサ　アラカネさん……。

と、突然マトヤがカウンターの中に倒れる。

アラカネ　マトヤ？

マトヤの元へ駆けよるアラカネ。

アラカネ　（棒読み）わー凄い汗だー。

ヌカガ　そんなことでは騙されないよ。

アラカネ　（真剣に）ケンスケ、ちょっと来て。

ケンスケが、マトヤに駆けよる、体を調べる。

マトヤの頭に、角のようなものが生えている。

サワタリ おいおい、なんだこの茶番は？

ヌカガ 面白くないよー。

コマヌイ 大丈夫ですか？

アラカネ おでこに……角が……。

ケンスケ 『マチクイ』だ……。

突然の大雨。

マトヤを小屋の中へ運ぶケンスケとアラカネ。

サワタリは何かを思い立ち駆けだし、コマヌイはそれを追いかける。

ゆっくりと暗くなる。

二・遠い人

夕方。雨が上がり、アラカネがテーブルや椅子を拭いている。

小屋の中から、ケンスケが現れる。

アラカネ どう？

ケンスケ 今、ぐっすり寝てます。

アラカネ なんか……ついに来たなって、感じやね。

ケンスケ 間違いなかとは思いますが、一応、検査だけはして下さい。

アラカネ うん……。

ケンスケ 申請の仕方は……言わんでもよかですね。

アラカネ ……ごめんね、何か色々。

ケンスケ ……よかですよ。

アラカネ あのさ……。

ケンスケ 早う行かんばですよ？若かったら進行は早かいですけんね。

アラカネ ……うん。

ケンスケ 雨上がって良かった。濡れんで済みます。

アラカネ そうね……。

ケンスケ そしたら。

ケンスケは去ろうとする。

アラカネ 何も言わんと？

ケンスケ ……何ば言うて欲しかとですか？

アラカネ 何ばって……。

ケンスケ 俺はアラカネさんば許さんです。親父も許さんです。絶対。一生。

アラカネ ……。

ケンスケ　　こがん言うても何も変わらんでしょ？
アラカネ　　……。
ケンスケ　　今はマトヤさんのことば考えてやって下さい。そいでよかです。
アラカネ　　……。

ケンスケに頭を下げるアラカネ。そこにタニが現れる。

タニ　　こんにちは！
アラカネ　　……。
ケンスケ　　お客さんですよ。
アラカネ　　いらっしやいませ。
タニ　　『憩いの場』って、ココですよね？
アラカネ　　……はい。冷たかもので、よかですか？
タニ　　あ、はい。

アラカネ、飲み物の準備をする。

ケンスケ　　じゃあ、行きますけん。
アラカネ　　うん……ありがとう。
ケンスケ　　元気なかとですよ？
アラカネ　　(やや元気に) ありがとう。
タニ　　(元気に) ありがとうございます！

ケンスケ、タニの対応に驚きながら去る。

アラカネ　　えっと……。
タニ　　辛いですよね……。苦しいですよね……。
アラカネ　　今日は、観光で？
タニ　　求人案内を見て来ました。
アラカネ　　いや、そがんとウチは……。
タニ　　これです。

タニはアラカネに紙切れを渡す。

アラカネ　　こい、北部のヤツですよ？
タニ　　でも本当に大変なのは、南部の方ですよね？
アラカネ　　まあ……。
タニ　　私、見たんです、ネットで。……昔の映像とか見たら凄く可哀相で……今は
　　落ち着いてるって言っても絶対困ってるはずだって思っ、探してみたんです
　　けど無いんですよ、今の暈ヶ尹の映像が。酷いじゃないですか、そんなの。

アラカネ はあ……。

タニ ボランティアで良いんです。お願いします。

アラカネ そがん言われても……。

タニ 寝袋を持って来たんで、場所だけ貸して頂けたら大丈夫ですから。

アラカネ あ……具体的に何ぼするつもりなんですか？

タニ その点に関しては、私達の中でも色々な意見が出ました。

アラカネ ……達？

タニ はい。同じ想いを持った個人の集まりなんです、全世界に沢山います。

タニはアラカネに名刺を渡す。

アラカネ (名刺を見て) 『ブラブラネット』？

タニ 『ブラザーブラザーネットワーク』。通称『ブラブラネット』と言います。

アラカネ はあ……。

タニ ウィーアーブラザー、ヘイ、ブラザー！

握手を求めるタニ。困惑するアラカネ。

アラカネ あ……宗教の勧誘なら……。

タニ そうじゃないんですよ、ブラザー。後天的な病気によって苦しむ世界中の方々の支援を、私達『ブラブラネット』は、ボランティア活動として、行っているんです。

アラカネ 支援……？

タニ 伝えましょう？みなさんの想いを。苦しみや悲しみは、一人で抱えるには重すぎます。

アラカネ まあ……。

タニ 『マチクイ』になったら、島の外に出られない。発症したら、強制的にこの島に送られる。こんな理不尽な話がありますか？

アラカネ 病気やけん、しよんなかでしょう？

タニ こんなこと許しちゃダメです。あなたたちにだって、自由に生きる権利があるんです。私たちに任せて下さい。

アラカネ ……言いたかことは、よう分かりました。でも、何でここに？

タニ ブラザーが言ってたんです。「機は熟した」と。

アラカネ ブラザー？

タニ 一足早く、ブラザーが、こちらに来て……。

ヌカガが現れる。

二二. 選択

タニ ブラザー・スーガー！
ヌカガ ブラザー・ターニー！
二人 ウィーアーブラザー、ヘイ、ブラザー！
ヌカガ オーケー、ブラザー。
タニ センキュー、ブラザー。
ヌカガ どうしてココに？
タニ ブラザーの現状を知り、いてもたってもいられなくなって来ました。
ヌカガ オーマイ、ブラザー！
タニ ブラブラ。
ヌカガ ブラブラブラ。
アラカネ 帰ってもらえませんか！
ヌカガ (タニに) 奥にマチクイ患者がいるんだけど、見に行く？
タニ もちろんです。

ヌカガは奥へ行くこうとする。

アラカネ ちよつと！
ヌカガ 何？
アラカネ ダメさ、そがんと。
ヌカガ ちよつと様子見るだけでしょ？
アラカネ あんたはそうかもしれないけど、そっちはなんか目的の違うごたるよ？

タニはビデオカメラを手に持っている。

タニ ?
ヌカガ ブラザー・タニ。撮影はNG。
タニ オーマイガ。
アラカネ 当たり前さ。
ヌカガ 盗聴はOK。
アラカネ ダメ。マトヤは見世物になんかさせん。
タニ あ…………。

タニは、小屋から現れたマトヤに気がつく。

アラカネ (マトヤに) ……どがんね？
マトヤ アラカネさん…………俺…………。
アラカネ ……うん。
マトヤ そっか…………。
タニ ブラザー…………角が生えています。
ヌカガ 初めて？

タニ
はいい……。
ヌカガ (イチロウを指して) そして最後には、こうなる。

タニ、イチロウを見て、驚いている。

ヌカガ (タニに) 怖い？

タニ いえ……。

ヌカガ 大丈夫だから。

タニ 怖くないです。

ヌカガ 私は怖い。怖くて仕方ないよ。

タニ 何でそんなこと言うんですか？

ヌカガ ……ねえ、(イチロウを指して) これは何？

タニ ……人間です。

ヌカガ 人間に見える？

タニ ……木に見えます。

ヌカガ うん。(マトヤを指して) じゃあ、彼は？

タニ 人間です。

ヌカガ (マトヤを指して) 彼の想いは映像に残せるかな？

タニ 残せません。

ヌカガ (イチロウに) じゃあ彼は？

タニ ……分かりません。

ヌカガ うん。それで良いと思う。

タニ どうしたら良いんですか？

ヌカガ どうしたら良いと思う？

タニ 分かっているなら教えて下さい。

ヌカガ それじゃ意味がないよ。分かっているってことだから。

タニ ……助けたいって思うことが間違っているんですか？

ヌカガ ううん。

タニ ええ？ 何ですか？これ。なぜぞぞ？

ヌカガ ううん。考えるの。一人で。

タニ ブラザー……。

ヌカガ カトウさん。南部の人の中には、『マチクイの木』を使って、何かを作っ

て欲しいって言う人がいるの。私は、その人達のために力を尽くそうと思っ
てる。良いよね？

マトヤ ……なんで分からなかったのですかね。

コマヌイが現れる。

コマヌイ カトウさんいますか？

アラカネ あれ？コマヌイさん？

コマヌイ　すぐ、動けますか？
マトヤ　どがんとしたとですか？
コマヌイ　早くここを離れて。
マトヤ　え？
コマヌイ　いいから、早く。

コマヌイが、マトヤの手を引いて、出て行こうとする。
サワタリ、現れる。

サワタリ　いやあ、みなさんお揃いで。カトウさんも、起きてたんだね。
アラカネ　あんた……まさか今度はマトヤば伐りに？
サワタリ　恐いこと言わないでよ。そんなことしないよ。
コマヌイ　でも、同じ事です。
アラカネ　どがん意味？
サワタリ　カトウさん、僕と一緒に、本土に行こう。

アラカネ、大きな声で笑い出す。

アラカネ　何ば言い出すかと思うたら、そがん出来もせんことば言うて。
サワタリ　(紙を広げ) マチクイ患者の離島許可証だ。
アラカネ　……。
サワタリ　国も、やっと重い腰を上げてくれたよ……北部の研究者は撤退だ。
アラカネ　撤退？
サワタリ　それと引き換えに、たった一人というのはケチな話だが、そこは仕方ないと
思ってくれ。
アラカネ　そいけん、マトヤば？
サワタリ　発症したばかりだからね。おめでとう。第一候補に選ばれたよ。

シムサが現れる。

シムサ　聞きました？トウコちゃん陣痛が始まったって。
アラカネ　シムサちゃん、それどころじゃなかとよ。こいつがマトヤば本土に連れて行くって。
シムサ　え？
コマヌイ　(サワタリに) あなたは、ただ研究がしたいだけなんですよ？
サワタリ　そうだよ？植物と動物の狭間にある彼らの謎は、まるで神様のパズルだ。それを解き明かすことが彼らの未来に繋がる。
コマヌイ　そんな個人的な理屈に、彼を付き合わせないで下さい。
サワタリ　君こそ、個人的な感情で話をしないで欲しい。
コマヌイ　私は……。

サワタリ それとも君は、邪魔をするために来たのか？
コマヌイ 違います。

サワタリ だいたい誰のせいになった？君達だろう？
コマヌイ ……。

サワタリ 私は、君達『レニアート財団』の尻ぬぐいをしてるんだ。感謝はされても文句を言われる筋合いはない。

コマヌイ ……。
アラカネ 何そい？

タニ (ヌカガに) 二〇年前に行っていた新エネルギー開発って、確か『レニアート財団』の出資でしたよね？

ヌカガ ……うん。
アラカネ (コマヌイに) あんた知ったとったよね？

コマヌイ ……。
アラカネ 何とか言わんね。

コマヌイ ……。
アラカネ 何とか言わんね！

シムサ アラカネさん……。
アラカネ だって、そうやる？全部、ココが悪かどたいな。

シムサ コマヌイさんのせいじゃなかでしょ？
アラカネ こいたちが、暈ヶ尹に來んかったら、こがんことにはなつとらんとよ？

マトヤ そいば受け入れたとは、俺たちたい。
アラカネ そがんと分かつとる……受け入れんば生活出來んかったたい？しよんなかさ、分かつとるよ。分かつとるけど……。

シムサ 事故ば起こしたとはコマヌイさんじゃなかでしょ？
アラカネ じゃあ、誰に言えば良かと……？

コマヌイ ……すみません。
アラカネ 謝らんでよ！

タニ ……しよがなくなんかないです。
ヌカガ タニ。

タニ 事故を起こした側が謝るのは当たり前じゃないですか。
ヌカガ 黙って。

タニ 土下座すれば良いんですよ。謝りなさいよ。
マトヤ そうじゃなかとです。

タニ ……。
マトヤ そうじゃなかとですよ。

タニ ……。
サワタリ (マトヤに) じゃあ、どんな答えを君は出すんだ？行くのか？行かないのか？

マトヤ ……。
サワタリ 君は利口だと思ってたんだがな……残念だよ。

サワタリは帰る準備をする。

マトヤ 待つて下さい。……俺が断ったら、別の誰かになるとですよね？
サワタリ 当然そうなる。北部が撤退するんだ。手土産なしとはいかないな。
シムサ また断られますよ。
サワタリ じゃあ、このままみんな木になるのを待つだけだ。
シムサ ……。
サワタリ それが君たちの答えなら、仕方ないな。

サワタリは帰ろうとする。

マトヤ 俺が行けば……マチクイは治るとですか？

サワタリ 説明はするよ。私のプライドに懸けてもね。でも治るかどうかの約束は医者
の仕事だな。

マトヤ そいやったら……少し考えさせて下さい。

アラカネ マトヤ……。

マトヤ 明日の朝までに返事ばします。そいまで、このことは他の人には……。

サワタリ 良いだろう。明日の朝八時。それ以上は待たないからな？

マトヤ ありがとうございます。

サワタリ じゃあ、今夜はクミコママのところにでも行こうかな。……良い返事、期待し
てるよ。

サワタリ、出て行く。

シムサ、迷いながらもサワタリを追いかける。

何とも言えない静かな空間に、マチクイの歌が聞こえてくる。

ゆっくりと暗くなる。

二三. タニの決意

夜。マトヤが椅子に腰掛け、タニが立っている。

タニ ファイト・ファイト・カトウ。ファイト・ファイト・カトウ。
マトヤ ……。

タニ ファイト・ファイト・カトウ。ファイト・ファイト・カトウ。

マトヤ ああ……。

タニ はい、ブラザー。

マトヤ 分かってますよね？

タニ 考えてるんですよね？

マトヤ そうです。

タニ 応援します。ファイト・ファイト・カトウ。

マトヤ あの。
タニ はい、ブラザー。
マトヤ ちよっと、静かに。
タニ ああ……（小声で）ファイト・ファイト・カトウ。
マトヤ 余計気になるんで……あっち行ってもらえんですか？
タニ （絶望的な顔）
マトヤ お願いします。

タニはトボトボと小屋の中に入り、入れ替わりにアラカネがドアからやって来る。

アラカネ トウコちゃん、頑張ったよ。
マトヤ うん……。
アラカネ 凄かね、本当凄か。
マトヤ うん……。

カウンターの椅子に腰掛けるアラカネ。

アラカネ 何で何も聞いてくれん？
マトヤ ……うん。
アラカネ あんたいつも、そがんよね？何でん一人で決めてさ。
マトヤ ……。
アラカネ 一人で考えて一人で行動して、あたしは必要なかどたい。
マトヤ アラカネさんには、感謝しとる。
アラカネ そがん言えば済むって思うとると？バカにせんでよ。
マトヤ ……。
アラカネ ホントの家族のごと思うとったとは、あたしだけやったとたいね……。
マトヤ そがんことなか、俺も、そがん思うとる。
アラカネ そいやったら、一緒に考えさせてくれてもよかやかね。
マトヤ ……。
アラカネ 私はね。
マトヤ 言わんで。
アラカネ 私はね。
マトヤ 聞いたらそがんしとうなるたい。やけん言わんで。
アラカネ あゝあ、私が代わりに行けたら、こがん思えばせんで済んだと……。
マトヤ そがんなったら、俺がアラカネさんごと思うとやろね。
アラカネ そうさ。私も頑固かとやけんね？
マトヤ そうやね……。
アラカネ ねえ……なんであたしは、マチクイになれん？私も、マチクイになりたか
…………。
マトヤ 神様が頑張れって言いよつとき。アラカネさんには、アラカネさんにしか出

来んことのあるたい。

アラカネ そがんと、何もなか……。

マトヤ ノートば書かんばたい。アラカネさんがおったら、そのノートの中に、みんなの気持ちの残るたいな。

アラカネ あたしに出来ることは、こいしかなかと？

マトヤ そいで十分さ。俺のことも書いてくれるとやろ？

アラカネ ……書かん。

マトヤ 何で？

アラカネ あんたの名前は書かんよ。あんたは帰ってくるとやけん。

タニ うわああああ。(泣きじゃくる)

タニが泣きながら小屋から現れる。

アラカネ ああ、もう何ね？おったと？

タニ (泣きながら頷く)

アラカネ なんてあんたが泣きよるとね？

タニ だって……。

アラカネ 書かんでよかごとなるとよね？

マトヤ そんなめに行くとき。

タニ それ、見せてください。

アラカネ、タニにノートを渡す。

マトヤ まだあつとですよ。これまで木になった人の名前ば、アラカネさんが全部書いてとるとです。

タニ ……。

アラカネ その人がどがん人やったとか、何ばしよったとか、どこにおるかとか、どがんなつても分かるごと、書いてきたとです。

タニ 分かります。

アラカネ 最初は、あたしのお母さんが書いて、お父さんが書いて、あたしが書いて……ずっと書いてきたとです。

タニ ……みんなこのノートの中に、生きてるんですね。

アラカネ マチクイの歌もね、同じごと聞こえるけど、みんな違うとですよ。同じ人間のおらんごと、そいば忘れんごと……こんノートには、色んな想いの書かれとるとです。

タニ (ノートを読む) 「シイノ・ユウ。暈ヶ尹で生まれた。スイカば、よう食いよつた。喧嘩して、よう泣かされた。男のごたった。やけん好かんやった。」

アラカネ、マトヤを見る。マトヤは外を見ている。

タニ 「田舎が好かんって出て行った。音楽ばしたかって出て行った。ユウちゃん
の歌は好きやった。『真っ直ぐ立つとるやろが』って、シイばあちゃんの言う
とおりやった。」

アラカネ (マトヤに) よう書けとるたい。

マトヤ 恥ずかしか……。

タニ ……これ、お借りしても良いですか？

アラカネ 借りてどがんすると？

タニ 今書いているのじゃなくて、昔のヤツで良いんで、見に行きたいんです。コ
レに書かれた人が、どんな人なのか。そうすれば、私に出来るんですが、何か分
かる気がするんです。

アラカネ 何かって？

タニ 誰もが分かるように、ココにいたんだぞって、そういう主張もあると思うん
です。それを伝えるぐらいなら、私にも出来ると思うんです。

アラカネ ……待っとかね。

タニ ありがとうございます。

アラカネ、奥にノートを取りに行く。

タニ 私、やっと分かりました。自分に出来ることを見つけられました。だから、カ
トウさんは、カトウさんに出来ることをすれば良いんだと思います。それを私
は、応援します。

マトヤ ……はい。

アラカネ、奥からノートを持って来る。

アラカネ 全部いると？

タニ はい。

アラカネ 汚さんごととしてよ。

タニ はい。行ってきます。

アラカネ 今から？

タニ タイム・イズ・マネー。

タニはドアから出て行く。

アラカネ 元気かよね。あたしも分けてもらおうかな？

マトヤ それ以上元気になってなんすると。

アラカネ なんかさ、ユウちゃんに似とるよね？

マトヤ 似とらん。

アラカネ 顔じゃなかよ。性格のさ。

マトヤ そう？

アラカネ あんたの苦手なタイプ。
マトヤ そいは、否定せんけど。

タニが戻ってくる。

タニ アイム・ホーム！
アラカネ 早っ。

タニ 場所が分かりません。
アラカネ ……。

タニ 連れてって下さい。
アラカネ あたしが？

タニ お願いします。
アラカネ ……しよんなかね。

マトヤ 気いつけて。
アラカネ さっきの話、前言撤回するけん。

マトヤ そうやる？
タニ 何の話ですか？

コマヌイがやって来る。

コマヌイ こんばんは。
アラカネ よかけん、行くよ。

アラカネ、タニが出て行く。

二四. 出発

マトヤ すみません、こがん時間に。
コマヌイ いえ……。

ドアの方を気にするコマヌイ。

マトヤ 罰の悪かだけですよ。
コマヌイ 私……嫌われてるでしょうから。

マトヤ 頭じゃ分かっるとですよ。……多分、ですけど。

コマヌイの口元が少し緩む。

マトヤ 一つ、聞いてよかですか？
コマヌイ はい。

マトヤ もし、俺が行くって言うて、それでも解明出来んかったら、また誰かば連れて行くんですか？

コマヌイ ……。

マトヤ 「財団が」っていうとはナシですよ？

コマヌイ ……そうすると思います。

マトヤ (何度か頷く)

コマヌイ すみません……。

マトヤ ……コマヌイさん。

コマヌイ はい。

マトヤ 決めました。

コマヌイ はい……。

マトヤ よろしくお願いします。

コマヌイ 良いんですか？それで。

マトヤ 最後までお節介してくれとでしよ？

コマヌイ もちろんです。

マトヤ そいば信じます。

コマヌイは頭を深く下げる。

マトヤ 頭、上げて下さい。自分のために行くんですけん。

コマヌイ ……今後の島のことは、私の方からも国に掛け合ってみます。

マトヤ 無理せんちゃよかですよ。

コマヌイ それぐらいさせて下さい。私も、暈ヶ尹の人間ですけん。

マトヤ ……イントネーション、可笑しかです。

コマヌイは少し笑みを浮かべる。マトヤもつられて笑う。

コマヌイ では、明日の朝、また。

マトヤ 今から、行けませんか？

コマヌイ え？

マトヤ 今の内に、北部に行けば朝一の舟に乗れるけん。

コマヌイ ……分かりました。

マトヤ みんなには、言わんで下さい。

コマヌイ 車の手配してきます。

マトヤ お願いします。

コマヌイ、去ろうとする。

マトヤ あの……ヌカガさんがどこにおるかとか知らんですよね？

コマヌイ 下の階の寝袋に。

マトヤ あの人、ココば私物化しとるなあ……。
コマヌイ 呼んで来ましようか？
マトヤ お願いたしたいことがあるって言うて下さい。
コマヌイ 分かりました。

コマヌイ、去る。

マトヤは、イチロウに水をあげ、しばらくイチロウを見ている。
そこへ、シムサが手にお酒を持って現れる。

二五、あの日の真実

シムサ 飲みませんか？
マトヤ ……戻ってきたとですか？
シムサ 何か眠れんとですよね……。
マトヤ 俺もです。
シムサ ……じゃあ、一緒に。

マトヤ、グラスを取りに行く。

シムサ ココ、お酒は、なかとですってね？
マトヤ お父さんが好かんかったけん、置いとらんとです。
シムサ 好かんことは、なかでしよう。
マトヤ 何で？
シムサ うちのママと一緒に、よう飲みよったって言うてましたよ？
マトヤ じゃあ何かの拍子にやめたとですかね？
シムサ たぶん……。
マトヤ したら……お父さんとも。

マトヤはグラスを三つ持って来る。

シムサは、そのグラスにお酒を注ぐ。

マトヤは、その内の一つをイチロウの前に置く。

マトヤ なんか、自分の親とに知らんことの多かですな。
シムサ あたしも、最近ですよ。色々聞いたとは。

お酒を口にする二人。

マトヤ お父さんの若か頃って、どがんやったか聞いてます？
シムサ 格好良かったって、言うてました。
マトヤ うわあ、のろけや……。

シムサ 目ば、キラキラして話すとですよ。
マトヤ きつかあ。

シムサ でも、一番大事かことは、言うてくれんとです。
マトヤ 大事かって？

シムサ パパのこと……。 (イチロウを見て) 「こん人よ」 って言うてくれたら、一発ぶ
ん殴ってやるとに……。

マトヤ ……そいで気が済むとなら、どうぞ？

シムサ 冗談ですよ？

マトヤ 好いたごとしてよかです。目、瞑りましようか？

アラカネがドアを開け、中へ入るとすぐに隠れる。

シムサ ……まだ怒っとるとですか？

マトヤ そがんことなかですよ。

シムサ 怒っとるとでしよ？

マトヤ なかですって。

シムサ 怒っとる。

マトヤ 怒っとらん。自分がこがんことになって、ようやくなんか分かったですけ
ん。

シムサ ……ヌカガさんの話？

マトヤ 遅かですよね、分かるとの。もっと早う気づいてやれば良かった。そした
ら、もっと気持ちの分かったとやろうに……。

シムサ ……カトウさん、あの日の記憶って、ありますか？

マトヤ (首を振り) 何も覚えとらんとです。

シムサ あの時、カトウさんの一番近くにおったとは、お母様やったとです。

マトヤ クミコママに聞いたとですか？

シムサ (頷いて) お母様は、カトウさんば庇い、マチクイに冒された。泣き続けるカ
トウさんを抱きしめたまま、お母様は木になったとです。

マトヤ 俺が今まで木にならんかったとは、そのおかげ？

シムサ その木の中で、一日中泣きじゃくるカトウさんば助けるために、イチロウさ
んは、木ば切ったとです。

マトヤ (イチロウに) ……辛かことさせてしもうたね。 ……言えんかったとやろうな
あ。

シムサ そがん言うてました。

マトヤ ……良かった。最後にそがん話ば聞けて。

シムサ 決めたとですか？

マトヤ ……はい。

シムサ そうですか……。

マトヤ 今から出て、朝イチの船で行きます。

シムサ そがん逃げるごと行かんでも……。

マトヤ そうじゃなかとです。
シムサ みんなには？よかとですか？
マトヤ 今更、泣かれても困るし、特にアラカネさんには。
シムサ 何も言わんで？
マトヤ ……手紙ば書きます。それで、許してって言うたって下さい。
シムサ 分かりました。

コマヌイが現れ、アラカネに気づく。

コマヌイ アラカネさん。
アラカネ しー。

アラカネは、チラリとマトヤの様子を伺う。

マトヤ 昔からかくれんぼ弱かったもんね。
アラカネ 今来たところば、たまたま。
マトヤ ……あの人は？
アラカネ 逃げてきた。
マトヤ なんかタイミング良すぎじゃなか？
アラカネ コマヌイさんに聞いて……。
コマヌイ すみません。
マトヤ ……しよんなかね。
アラカネ しよんなかさ。
マトヤ アラカネさん、部屋にバッグのあるけん、持ってきてくれる？
アラカネ うん……。

アラカネ、奥へ。

マトヤ コマヌイさんも飲みませんか？
コマヌイ ……じゃあ、一杯だけ。
シムサ 作ります。

ヌカガが、現れる。

二六、約束

ヌカガ 何これ？みんな揃ってるの？
マトヤ すみません。起こして。
ヌカガ 本当だよ。良い夢見てたのに……。
シムサ また見れますよ。

ヌカガ ……それで？頼みって何？
マトヤ お父さんは使って、作って欲しかとのあるとです。
ヌカガ 良いの？
マトヤ アラカネさんは怒るかもしれんけど、お願いします。

アラカネが戻ってくる。

アラカネ 何で怒るとね。よかたい。
マトヤ よかかな？
アラカネ よかことたい。
マトヤ お願いできますか？
ヌカガ オーケー・ブラザー。
マトヤ ……一つは、このテーブルに合うた椅子ば作って下さい。お母さんが寂しくなかごと。

アラカネ うん、そいがよか。
ヌカガ 椅子ね？
マトヤ もう一つは、飲み屋に合いそうな、何かを作って下さい。
シムサ ママに？
マトヤ 何が喜ぶとかな？

シムサ ……何でも喜びます。
マトヤ 一緒に本土には行けんかったけど、そいで許して貰えるやろか？
シムサ はい。

コマヌイ 看板なんてどうですか？
ヌカガ 良いね、じゃあこの顔の部分を使って……。
マトヤ それ以外でお願いします。
アラカネ ……あたしも、椅子が欲しかなあ。

マトヤ じゃあ、それも。
ヌカガ いっぱいあるなあ……腕の見せ所だね。
マトヤ お願いします。

ヌカガ ……カトウさん。また会おう？
マトヤ 僕が、木になったら、カツコイイものにして下さい。
コマヌイ 私が責任持って、連絡します。
ヌカガ また会おう！
マトヤ はい。

ヌカガ、去ろうとしたところに、ケンスケとタニが現れる。

ケンスケ 産まりました！トウコちゃん！元氣か男の子です！
シムサ 本当？良かった……。
タニ こんな小さい手でね。ぎゅーって握るんです。

アラカネ そいは大物たい。
マトヤ ヌカガさん。
ヌカガ 何でも来なよ。ベッド？ガラガラ？
アラカネ 色々作って。
ヌカガ よーし、忙しくなってきたよ。(タニを見て)手伝ってくれる？ブラザー？
タニ イエス！ブラザー！
ケンスケ 俺も……俺もブラザー！

ヌカガとタニ、ケンスケは出て行く。

アラカネ コマヌイさん、マトヤのことよろしくお願いします。
コマヌイ また来ます。

アラカネ (マトヤに)次来たときは違う話ば聞かせるけん。誰も泣かんでよか楽しか話ば聞かせるけん。
マトヤ 楽しみにしとくけん。

アラカネ、バッグをマトヤに手渡す。

アラカネ ……帰って来れるさ。
マトヤ 俺が帰って来れんごとなったら、アラカネさんが来んばよ？
アラカネ あたしが？
マトヤ 俺の体に出来たマチクイの実は、アラカネさんが取らんばさ。
アラカネ ……うん。
マトヤ 体は邪魔になるけん、捨ててよかけんね。
アラカネ 捨てるモンは、なんもなか。
マトヤ どがん形になつとるかも分からんけん、捨ててしもうて。
アラカネ どがんなつとつても、そいはゴミじゃなか。
コマヌイ 私が絶対捨てさせません。
アラカネ あんたはココに根つこの残つとるとやけん、帰って来んばさ。
マトヤ ……アラカネさん……俺ね？……恐か……。

アラカネ、マトヤを抱きしめる。

アラカネ あたしの弟やろうが、しっかりせんね。
マトヤ うん……。
アラカネ 辛か時には顔ば思い出さんねよ？私も……忘れんけんね。
マトヤ うん……。

アラカネはマトヤを離す。

アラカネ 終わらせてね。
マトヤ うん。
アラカネ 待ってるけんね。
マトヤ マチクイの歌も歌うてよ？
アラカネ 一人で熱唱するさ。
コマヌイ 私も歌います。
マトヤ ありがとうございます。
シムサ 私も頑張って歌うけん。ずっとずっと遠くまで、聞こえるごと。私だけじゃなくて、島のみんなで歌うけん。大きか声で歌うけん。
マトヤ 島のみんなでかあ。聞きたかなあ……。
シムサ そんな時はさ、一緒に歌おう。こがんことあつたよって、みんなで歌おう？
マトヤ そいは、よかなあ。

マトヤとコマヌイは、出て行く。
途中、イチロウに目を配り、テーブルに触れて出て行くマトヤ。
辺りを包み込む、優しい風。
アラカネが、涙を零さないように空を見上げて、すっと辺りが暗くなる。

(おわり)

〔作品名〕 けしてきえないひ
〔作〕 福田 修志
〔発行〕 フーズ・カンパニー
〔連絡先〕 〒850-0036 長崎県長崎市五島町 8-7-3F
《TEL》 095-895-8147 《MAIL》 seisaku@fs-company.com
《URL》 <http://www.fs-company.com>